

会 告 目 次

学会誌モニタ募集のお知らせ	色紙
アンケート用紙	色紙
研究発表会開催通知	2
第 90 回 ソフトウェア工学研究会	2
第 61 回 グラフィクスと CAD 研究会	3
論文誌国際化のための統合論文誌発行にあたって	5
「学会誌特集セミナー：ファジィ理論と情報処理」開催案内	6
論文賞候補の論文推薦のお願い	6
奨励賞候補の推薦について	7
第 46 回 全国大会「チュートリアル・セッション」開催について	8
第 46 回 全国大会（平成 5 年前期）概要について	10
第 47 回 全国大会（平成 5 年後期）の開催について	10
本会協賛等の行事案内	10
第 46 回 全国大会予約案内	11
「連続セミナー '92」の参加について	13
「マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」開催について	15
ソフトウェア工学小規模国際会議 '93 論文募集	15
ISADS '93	17
「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集	18
支部だより	19
平成 5 年度会費および論文誌購読費の納入について	22
会 議 案 内	23
教 官 募 集	24
雑 報	25
事務局だより	26
論文査読をお願いした方々へ	27

[会 告]

学会誌モニタ募集のお知らせ

学会誌“情報処理”をより良くするために編集関係者一同努力を続けておりますが、学会誌についての会員の方々の評価や希望を知って今後の改善に役立てるために、このたびモニタ制度を発足させることになりました。関心のある方はぜひふるってご応募ください。

1) 応募の資格

- ・正会員、学生会員で、かつ下記の役割を積極的に果たしていただける方。

2) モニタの役割

- ・学会の指定する形式（本ページうらのアンケート用紙の形式に準ずる）の簡単な報告書を毎月提出する。

学会誌の記事に対する感想、意見

学会誌で取りあげるべきテーマの提案

その他学会誌に対する全般的な意見や提案等

- 注) 学会誌の記事をすべて読むようなことはかならずしも必要ありません。自分の立場や問題意識、得意とする分野等を基準とした“独断と偏見”による自由な意見を求めます。

3) 期 間

- ・平成5年4月から1年間

制度として継続したいと考えており、毎年公募します。

モニタの再任についての制約はありませんが、特定の人に長期間お願いするよりできるだけ多数の方にお願いしたいと考えています。

4) 謝 礼

- ・年間1万円相当の図書券を差しあげます。

5) 募集人員

- ・20名。応募者多数の場合は学会誌編集委員会で決定させていただきます。

6) 応募しめきり

- ・2月末までに下記あてにご連絡ください（郵便またはFAX、形式自由）。

氏名、連絡先（住所、電話、FAX）、所属機関、得意とする分野（特にあれば）、等を記入してください。

連 絡 先

160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27F (社)情報処理学会 学会誌編集係
Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

学術研究の
歩に貢献す

研究成果を
するとともに
能力を高め
がある。

超え、官民
材の養成等
しいシステ

的貢献策
やかに結露

す。この講
的に展開し
りましたの
願います。

第5部会員
学長)

の国際貢献
第1部会員
学長)

第5部会員
ンター所長)

議会議長
号を明記し
。

、下記ま

3)6291

宛先: FAX 03 (5322) 3534 (本用紙を含む送信枚数 枚)
 住所 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 階
 情報処理学会 学会誌編集係 御中

発信者: (芳名) _____ (会員番号) _____

(ご所属) _____ (電話番号) _____

- [1] 学会誌の改善についてのご意見やご提案がありましたら自由にお書きください。
 「編集室」に掲載することがあります。その場合 実名可, 匿名希望, 掲載不可
- [2] 今月号(1993年1月号)の記事の中であなたが読まれた記事及び今月号全般についてのあなたの評価をご記入ください。

*評価は次の5段階でご記入ください。

5. 非常に良い 4. 良い 3. 普通/なんともいえない 2. 悪い 1. 非常に悪い
 0. 関心がないので読まない

特別論説

「情報処理最前線」

オブジェクト指向プログラミングの利用価値.....

特集「ファジィ理論と情報処理」

1. ファジィ理論の基礎概念と情報処理への応用.....
2. ファジィ集合に基づく自然言語の意味表現.....
3. ファジィ関係に関する諸問題—計算法を中心に.....
4. ファジィモデリング.....
5. ファジィ制御とニューラルネットワークとの融合法.....
6. ファジィ数学とファジィ工学.....

会員の声

連載「情報科学・工学, 私はこう考える」

プログラミング言語, 私はこう考える.....

グラフアルゴリズム, 私はこう考える.....

解説

ハイパーメディアの研究動向.....

非同同期式プロセッサ—超高速 VLSI システムを目指して—.....

発想支援システムの動向.....

エキスパートシステムの諸事例-VIII 健康管理支援システム.....

講座

計算機の記憶システム-IV マルチプロセッサの記憶システム(1).....

キー検索技法-III 探索木法とその応用.....

1993年1月号全般についての評価.....

評 価		
総 合	分 り 易 さ	内 容
★	★	★
★	★	★
★	★	★
★	★	★
★	★	★
★	★	★

学会誌モ
 アンケ
 研究発表
 第90
 第61
 論文誌
 「学会誌
 論文賞
 奨励賞
 第46回
 第46回
 第47回
 本会協
 第46回
 「連続セ
 「マルチ
 ソフト
 ISADS
 「利用者
 支部だ
 平成5
 会 議
 教 官
 雑
 事務局
 論文査

研究発表会開催通知

(平成5年1月15日～2月28日)

研究会	日	時	会場	備考
情報システム	1月19日(火)	9:30～17:00	機械振興会館	前号参照
人工知能	1月20日(水) 1月21日(木)	13:00～17:30 9:10～12:30	A T R	同上
コンピュータビジョン	1月21日(木)	10:00～16:30	広島大	同上
計算機アーキテクチャ } 合同 設計自動化 }	1月21日(木) 1月22日(金)	10:00～17:50 10:00～17:00	松下電器(大阪)	同上
記号処理	1月22日(金)	10:20～16:45	N E C(本社)	同上
コンピュータと教育	1月22日(金)	13:00～16:40	工学院大	同上
アルゴリズム	1月25日(月)	13:30～17:00	東芝科学館	同上
プログラミング—言語・基礎・実践—	1月28日(木) 1月29日(金)	13:00～18:00 9:30～16:30	富山県立大	同上
マルチメディア通信と分散処理	1月29日(金)	9:30～17:00	三菱電機(鎌倉)	同上
ソフトウェア工学	2月4日(木) 2月5日(金)	9:20～17:40 9:30～17:00	金沢大	下記参照
グラフィクスとCAD	2月26日(金)	13:00～17:10	リコー(東京)	同上

◆ 第90回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数: 19件)

(主査: 原田賢一, 幹事: 宇都宮公訓, 大槻 繁, 大蒔和仁)

日 時 平成5年2月4日(木) 9:20～17:40 (受付開始 9:00)

5日(金) 9:30～17:00

会 場 金沢大学 工学部 秀峰会館

[金沢市小立野 2-40-20, JR: 金沢(東口)下車, バス(11番乗場): 錦町, 東部車庫, 女子大学, または湯涌温泉行きにて工学部前下車(30分), 徒歩1分, Tel. 0762 (61) 2102]

議 題

2月4日(木)

— 9:20～12:20—

(1) 計算グラフによる DSP のためのデジタルフィルタプログラム自動生成

加藤恭子, 北岡信一(金沢工大), 石端尚正(リコー), 武部 幹(金沢大)

[概要] 連立方程式と DSP 演算命令を木表現し, 命令の木と式の照合により演算順序を決定してゆく。

(2) C並行処理プログラムのプロセス間通信に関するテスト充分性評価法について

伊東栄典, 川口 豊, 片山徹郎, 古川善吾, 牛島和夫(九大)

[概要] UNIX 上のCプログラムで使用されるセマフォやソケットに関するテスト充分性評価法を考察する。

(3) リアクティブデータフローモデル: ソフトウェア設計ドキュメントの表示過程の記述と再現

福田晴元, 高橋直久(NTT)

[概要] ソースコードや設計文書の分析手順をデータフロープログラムで記述し, 対話的に再現する手法の提案。

(4) 設計履歴とベトリネットを用いたソフトウェア変更支援

村瀬康人, 小野康一, 新井浩志, 深澤良彰, 門倉敏夫(早大)

[概要] 設計履歴をベトリネットによりモデル化し, 変更時のシステム把握支援を行うシステムを提案する。

—13:30～17:40—

(5) Linguistic Support for Designing Reliable Software

Dusan Jokanovic, Masataka Ohta (高度通信システム研)

[概要] An extension of LOTOS to make it possible to define atomic sequences of actions.

(6) ネットワークプログラミングのための並行オブジェクト指向言語の設計 小島一人, 野呂昌満 (南山大)

〔概要〕 ネットワークプログラミングのための並行オブジェクト指向言語の設計とその実行環境について述べる。

(7) 時間付き属性超グラフ文法に基づく図形編集環境の構成法 敷田幹文, 徳田雄洋 (東工大)

〔概要〕 文法に従った図形を対話的に編集し, その図形の意味を計算する環境の構成法について述べる。

(8) ビジュアルなソフトウェア要求仕様化技法 大西 淳 (京大)

〔概要〕 記述者が形状と意味を定義するアイコンを用いて, ソフトウェア要求を記述する手法と処理系の紹介。

(9) 組込制御ソフトウェアへのオブジェクト指向設計手法の適用 井上勝博, 赤嶺暁子, 斉藤悦生 (東芝)

〔概要〕 エアコン制御ソフトウェアの開発にオブジェクト指向設計手法を適用した。その有効性について考察。

(10) Conceptual Modeling of Families of Real-time Embedded Software System

Veikko Seppanen (京大)

〔概要〕 携帯電話機の制御を例として, KDM 設計法によるリエンジニアリングと再利用技術について述べる。

2月5日(金)

— 9:30~12:20 —

(11) プログラム変換履歴の一般化 鈴木秀明, 西谷泰昭 (群馬大)

〔概要〕 プログラム変換履歴の再利用を目的として, 履歴の一般化手法とその利用例について報告する。

(12) プログラム変更に対する正当性検証技法と分割技法の適用

丸山勝久, 小野康一, 門倉敏夫, 深澤良彰 (早大)

〔概要〕 変更を受けた仕様とプログラムに対して, 2つの技法を適用することで変更影響範囲を特定する。

(13) スパイラル型開発モデルにおける要求実行例・仕様記述・プログラム相互間の対話的整合性維持手法

大塚 玲, 菅谷光啓 (野村総研)

〔概要〕 設計記述間の整合性を維持しながら, 開発プロセス間の手戻り, 仕様/コード変更を支援する手法。

(14) ソフトウェア仕様化/設計法のデータベースの試作 篠原正紀, 井口和久, 佐伯元司 (東工大)

〔概要〕 複数の設計法を蓄え, 設計作業のガイドや異なる設計法による仕様の統合等を行うツールを試作した。

—13:30~17:00—

(15) Scenario/Role/Object モデルに基づくソフトウェア構築法 片山佳則, 小林 要 (富士通研)

〔概要〕 動作実体の共有と動作場面の独立性や柔軟な改良機構等を備えたモデルによる構築法と事例を示す。

(16) 関数型言語と写像について 杉藤芳雄 (電総研)

〔概要〕 関数型言語の構造および機能に関して, カテゴリ理論等の, 写像関係を中心とする立場から眺める試み。

(17) 全体プロセス記述からの個人プロセス記述の導出に関する考察

松永泰明, 荻原剛志, 井上克郎 (阪大), 鳥居宏次 (奈良先端大)

〔概要〕 プロジェクト全体のプロセス記述から個々の作業者のための記述を導出する方法について検討する。

(18) ソフトウェア分散協調開発の為の合理的なグループ意思決定支援 西野 光, 古宮誠一 (IPA)

〔概要〕 ソフトウェア分散協調開発で重要な, グループの意思決定を合理的な結論に導く方法を示す。

(19) PCTE スキーマ設計にみる発想機構 沢田篤史, 鯉坂恒夫, 松本吉弘 (京大)

〔概要〕 SDS を用いた設計過程における発想機構の類型化とそれに基づく設計方法論構築へ向けての考察。

*懇親会: 4日(木)のプログラム終了後, 金沢厚生年金会館にて開催予定。

◆ 第61回 グラフィクスとCAD研究会

(発表件数: 6件)

(主査: 西原清一, 幹事: 宇野 栄, 大野義夫, 間瀬健一)

日 時 平成5年2月26日(金) 13:00~17:10

会 場 リコー OA ポート

(東京都千代田区内幸町 1-1-7 (大和生命ビルAネックス1階), 地下鉄(千代田線, 日比谷線, 都営三田線): 日比谷下車, または JR: 有楽町下車. Tel. 03 (3580) 4171)

議 題

(1) スケルトン方式による墨跡の生成手法に関する研究 張 家鈞, 大野義夫 (慶大)

〔概要〕 ペンで会話的に入力しさまざまな効果の筆跡を生成し, 手書き筆文字や墨絵のリアルな表現を得るための手法。

(2) 代数曲面を含む三面図の解釈 井上正博, 金 昌憲, 西原清一 (筑波大)

〔概要〕 円柱・円錐・円環・球を含む物体を, 与三面図から解釈復元する手法と知識の利用。

(3) フラクタル・レイトレーシング法 青山智夫, 水上真澄 (日立 CE)

〔概要〕 複素漸化式を離散時間の光線の運動とみなして, レイトレーシングを行う方法。

(4) 山岳景観の季節感のシミュレーション手法

高橋 匡 (岩手大), 村岡一信 (盛岡短大), 千葉則茂 (岩手大)

〔概要〕 新緑・紅葉・落葉や積雪・融雪を考慮した山岳景観の季節感のシミュレーション手法。

- (5) ボクセル分割の最適化によるレイトレーシングの高速化手法 坂井俊雄, 渡辺範人, 三好雅則 (日立)
〔概要〕 ボクセル分割の分割パラメータとして, 物体の大きさを用いることにより高速化する.
- (6) テクスチャ・マッピングによる流水の質感表示 木元宏次 (神奈川大), 大野義夫 (慶大)
〔概要〕 流水を表現する3次元テクスチャを作り, ボリュームレンダリング技法を用いて写像する色値を求める.

◆ ソフトウェア工学研究会

第91回 研究会を下記のとおり開催いたしますので奮ってご参加ください.

日 程 平成5年3月2日 (火)
会 場 機械振興会館

◆ 第19回 音楽情報科学研究グループ研究会

(発表件数: 3件)

(主査: 平田圭二, 幹事: 鈴木 孝, 増井誠生, 志村 哲)

日 時 平成5年2月11日 (木) 13:00~16:00
会 場 銀座 十字屋 9階 ホール

[東京都中央区銀座 3-5-4, JR: 有楽町下車, 徒歩5分, または地下鉄: 銀座下車, 徒歩3分.
Tel. 03 (3561) 5260]

議 題

- (1) The Minimus Music Programming Language Ioannis Zannos (東大)
(2) A Four Channel Dynamic Sound Movement System Fernando Lopez Lezcano (慶大)
(3) Audio Windows for Virtual Concerts Michael Cohen, Nobuo Koizumi (NTT)

*同時時間帯に「計算機音楽に関する商業システム展示」が隣室で行われています。
*また, ひきつづきコンサート 17:00~20:00 (入場料3,000円) が行われます。

問合せ先 小坂直敏 NTT 基礎研究所 Tel. 0422 (59) 2967 e-mail: osaka@siva.ntt.jp
柏野邦夫 東京大学 Tel. 03 (3812) 2111 内 7413 e-mail: kashino@mtl.t.u-tokyo.ac.jp



論文誌国際化のための統合論文誌発行にあたって

論文誌編集委員会

これまで情報処理学会では、和文の論文誌と英文の論文誌を各々独立して発刊してきました。会員の皆さまの研究活動の隆盛とともに、両誌とも内容が充実し高い学術的評価を得るものとなってきましたことは、ご同慶にたえません。

ひるがえって最近の学会を取り巻く状況を見ますと、これまでも増して国際化が強く叫ばれております。これを論文誌の立場から見ますと、次の2項目にまとめられます。

一つは、研究会などにおける英文発表増加の傾向です。特に若い会員には英文も和文も区別なく書き下させる方が多くなりました。国際的な観点からは、むしろ始めから英文で論文をまとめておきたいということだと思えます。

二つめは、日本の研究成果をもっと国外に流布すべきだという議論です。これまで、技術の分野では日本のただのり論が多々聞かれました。もちろん、国際会議などにおける日本人の研究発表数の増加に見られるように、研究成果の国際化の傾向はまちがいに進みつつあります。しかしこれらの発表は単発的なものであり、日本の研究状況について網羅的または概観的に知りたいという要求については、必ずしも満足に答えられる状況にはありません。

これらの環境条件の変化に対する解答の一案は、学会誌・論文誌ともに完全に英文化してしまい、国内外に広く頒布できるようにすることでしょうが、これは余りにも極端すぎることはいうまでもありません。

ということで、国際化に向けた第一歩として、論文誌を以下のように改革することとしました。

平成5年1月号から、従来分かれていた和文論文誌と英文論文誌を一本化して、統合論文誌とします。この統合論文誌には、和文・英文いずれの論文でも投稿できます。すなわち、和・英混載となります。これにより、例えば従来研究会までは英文で論文をまとめたものの、論文誌が二つに分かれていたために当学会論文誌に投稿をためらわれていた会員も、これからは心おきなく論文誌にご投稿いただけるものと信じております。さらに、統合論文誌には全文の英文アブストラクトを付けるなど、日本語を読めない読者の方にも一応全体の概要はお分かりいただけるよう工夫を凝らしてあります。さらに表紙も一新して、新統合論文誌としてふさわしいものとなったと自負しております。

統合論文誌の刊行によって、研究成果発表の場の国際化が図れるとともに、日本の研究状況を国外に知ってもらうための場の提供の一助ともなると考えています。しかし、日本の研究状況や研究活動の周知という観点からは、論文誌のみでは不十分であるし、また不適當なところもあります。

ということで、この目的を論文誌にのみ担わせるのではなく、新しい海外出版物を刊行するのが適當ではないかということで、検討を進めております。

このような学会雑誌としましては、情報処理学会単独で発刊するよりも、関連諸学会と協力して日本としての統合出版物を企画の方が適當ではないかという意見もあります。こちらについては、また検討がまとも次第ご報告したいと思えます。

論文誌の統合にとまなう投稿・原稿執筆規定などに関する詳細については、本号に掲載してありますので、合わせてご参照ください。

今後ともますます活発な会員の皆さまからの論文投稿をお待ちするとともに、統合論文誌の国際的なPRにつきましてもご高配をお願いいたします。

最後に、統合論文誌となりましても、これまで培ってきました迅速かつ公正な査読システムは継続されることを念のため申し上げますとともに、本計画をまとめるにあたっていろいろとご協力いただいた方々に深く感謝の念を表す次第であります。

「学会誌 特集セミナー：ファジィ理論と情報処理」開催案内

情報処理学会（学会誌編集委員会）では、昨年度から特集号の企画と並行してセミナー開催を検討することになりました。

このセミナーの目的は、執筆者が学会誌の特集記事を平易に解説し、焦点をしばり、専門外の参加者にも分かり易く、専門分野の参加者にも十分な最新情報を提供するものです。

本号掲載の「特集 ファジィ理論と情報処理」を資料としたセミナーを下記により開催いたします。詳細は次号2月号会告欄に掲載しますので、本セミナーへの参加をお願いいたします。

記

日 時 平成5年5月11日（火）10:00～17:00

場 所 工学院大学3階312教室（新宿区西新宿）

プログラム（予定）

- | | |
|------------------------|------------|
| ● ファジィ理論の基礎概念と情報処理への応用 | 向殿 政男（明大） |
| ● ファジィ集合による自然言語の意味表現 | 馬野 元秀（阪大） |
| ● ファジィ理論による回帰モデル | 中森 義輝（甲南大） |
| ● ファジィ理論とニューラルネットワーク | 林 勲（松下電器） |
| ● ファジィ関係に関する諸問題 | 宮本 定明（徳島大） |

論文賞候補の論文推薦のお願い

平成4年度論文賞の候補論文を推薦される会員は、下記事項を参考のうえ、論文の題名、著者名、掲載巻号、論文の専門分野、推薦理由および推薦者住所氏名を官製はがきに記入のうえ、本会論文賞係宛お送りください。

論文選定条件

1. 選定範囲および推薦数

平成3年10月から平成4年9月までの間に「情報処理学会論文誌」（Vol. 32, No. 10～Vol. 33, No. 9）および「Journal of INFORMATION PROCESSING」（Vol. 14, No. 3～Vol. 15, No. 2）に発表された論文の中から1編。

2. 推薦資格

本会正会員に限ります。

3. 締切日

平成5年1月31日（日）

表彰規程（抜粋）

第3章 論文賞

- 第9条** 論文賞は、本会の機関誌に発表された論文のうちとくに優秀なものを選び、その著者に贈呈する。
- 第10条** 表彰する論文は、原則として毎年4編とするが、編数は事情により変更することができる。
- 第11条** 選定の対象となる論文は、表彰の時期の前前年の10月から前年の9月までの間に発表されたものであることを要する。
- 第12条** 表彰する論文が共著の場合は、共著者全員を表彰する。
- 第13条** 論文賞は、同一著者に重ねて授賞しても差支えない。
- 第14条** 論文賞は、賞状、賞牌および賞金とする。賞金は、論文1編につき30,000円とする。

奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後10年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約10名を選び、奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る平成5年3月24日～26日に工学院大学で開催される第46回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者1名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第46回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は奨励賞委員会（委員長 相磯副会長）で行い、その発表と表彰は本年10月に開催の第47回全国大会（鳥取大学）時に行われる予定です。

記

選定範囲および推薦数

第46回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者1名

推薦資格 本学会正会員に限る。

推薦方法 官製はがきに、推薦する論文の ①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校(学部)卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会奨励賞係あてお送りください。

推薦締切 平成5年3月31日（当日消印有効）

表彰規程(抜粋)

第5章 奨励賞

第19条 奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第20条 奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第1回の委員会開催時とする。）
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後10年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第21条 第20条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第22条 奨励賞は、毎回約10名ずつ選定し、贈呈する。

第23条 奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

賞金は、1名につき20,000円とする。

第46回 全国大会「チュートリアル・セッション」開催について

本会では、全国大会の前日にチュートリアル・セッションを開催することにしております。多数の会員が一堂に会する機会にチュートリアル・セッションを開催し、会員の方々の関心のあるテーマを取り上げ、理解を深めたいと考え、この分野の第一線でご活躍の専門家により、最新の技術、さらには将来展望をも含めたチュートリアル・セッションを考えております。

つきましては、標記チュートリアル・セッションを下記により企画いたしました。この機会に奮ってご参加されるようお勧めいたします。

日 時 平成5年3月23日(火) 9:00~17:00
 場 所 工学院大学(新宿区西新宿)
 参加費 会員 10,000円 非会員 15,000円 学生 5,000円
 (どちらのセッションも聴講できます。)
 (資料のみ4,000円、送料込)
 申込締切 平成5年3月8日(月)
 (英語の講演は同時通訳つきです。)

~~~~~プログラム~~~~~

T1: CGが目指すリアリティとクオリティ

10:15~10:30	あいさつ		西原 清一(筑波大)
10:30~11:45	1. CGの技術動向		西田 友是(福山大)
11:45~12:50		一昼 休 み	
12:50~14:05	2. アミューズメント CG		斉藤 直宏(ナコム)
14:05~14:15		一休 憩	
14:15~15:30	3. 印刷業界とCG		小松原 繁(大日本印刷)
15:30~15:40		一休 憩	
15:40~16:55	4. 自然現象のモデリング手法		安生 健一(日立)

T2: オープンシステムにおけるセキュリティ対策

9:00~10:30	1. 最近のセキュリティの動向	W. J. Caelli (Queensland Univ. of Technology)
10:30~11:00		一休 憩
11:00~12:30	2. IBMのセキュリティ対策	小嶋 格(日本IBM)
12:30~13:45		一昼 休 み
13:45~15:15	3. UNIXのセキュリティ対策	James Clark (UNIX)
15:15~15:45		一休 憩
15:45~16:30	パネル討論	
16:30~17:00	サマリーと質疑応答	

第46回 全国大会「チュートリアル・セッション」
参加申込書

平成5年 月 日

標記チュートリアル・セッションの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

正会員, 賛助会員 10,000円 非会員 15,000円 学生 5,000円

*参加費には, 資料代が含まれています。

○テキストのみ (4,000円, 送料込) _____冊

○送金方法 (該当するものを○でかこむ)

合計 _____円を

- a) 当日, 会場受付にて支払います。
- b) 現金書留で _____月 _____日送金します。
- c) 銀行振込 (いずれも普通預金口座) で

第一勧業銀行新宿西口支店 2049562
 三菱銀行虎ノ門公務部 0000608
 名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 社団法人 情報処理学会
 ・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。
 請求書 通, 見積書 通, 納品書 通
 請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

○申込先・送金先 (FAX も可)

情報処理学会 チュートリアル係 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル27F
 Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 **T** _____

機関・
部課名 _____

フリガナ
氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

会
告

第46回 全国大会（平成5年前期）概要について

- 開催期日** 平成5年3月23日（火）～26日（金）
- 会場** 工学院大学（新宿区西新宿 1-24-2）
- 参加費** 電子情報通信・電気・照明・テレビジョン各学会会員は本会会員扱いとします。（賛助会員は正会員に準じます。）
 会員 1,000円 非会員 2,000円 学生無料
- 論文集・参加予約** 2月12日（金）締切り
 分冊 予約価 各4,000円（定価 各6,000円）
 セット（6分冊一揃、講演者索引・カバー付）
 予約価 24,000円（定価 36,000円）
- プログラム** プログラムの詳細は2月号に掲載されます。
- 招待講演1** （3月24日 13:00～14:00）
 Security and Management of Open Systems（仮題）
 W. J. Caelli (Queensland Univ. of Technology)
- 招待講演2** （3月25日 12:30～13:30）
 コンピュータを見直す—人文科学とコンピュータ（仮題） 杉田 繁治（国立民族学博物館）
- パネル討論** （3月26日 12:30～14:45）
 情報処理の新しい分野を探る（仮題） （司会）相磯 秀夫（慶大）
- 一般セッション** （論文発表申込1,068件）
- チュートリアル・セッション** （3月23日 9:00～17:00）
- CG が目指すリアリティとクオリティ
 - オープンシステムにおけるセキュリティ対策
- 奨励賞の表彰** 第45回全国大会奨励賞受賞者の表彰を本大会時に行います。

第47回 全国大会（平成5年後期）の開催について

平成5年度秋の第47回全国大会は下記により開催される予定です。大会実施要領は4月号本欄に掲載されますので、ご注意ください。

- 期日** 平成5年10月5日（火）～8日（金）
- 場所** 鳥取大学工学部（鳥取市湖山町南）

本会協賛等の行事案内*

<国内会議>

第194回 講習会「変る特許戦略」

平成5年2月17日（水）

東京・化学会館

講習会「知識獲得とファジィ・ニューラルネット」

平成5年3月19日（金）

東京・三田出版会

第3回 ロボットシンポジウム

平成5年5月25日（火）～26日（水）

大阪大学

<国際会議>

第3回 IUMRS 先進材料国際会議

平成5年8月31日（火）～9月4日（土）

東京・サンシャインコンベンションセンター TOKYO

* 詳細は本号会議案内欄参照

第46回 全国大会 予約案内

第41回全国大会(平成2年後期)から、講演論文集の分売制を導入いたしました。これにより、論文集の価格が大幅に変わりましたので、購入担当者の方ご注意ください。

つきましては、講演論文集・参加の「予約」を募集いたしますので、ぜひお申込みください。よろしくお願いいたします。

期 日：平成5年3月23日(火)～26日(金)

会 場：工学院大学(東京都新宿区西新宿 1-24-2)

論文集：B5判オフセット印刷 ※論文集価格は消費税・送料込です

■第1分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

情報科学一般

基礎理論及び基礎技術

ネットワーク

応用

■第2分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

人工知能及び認知科学

人工知能システム

パターン認識

生体情報処理

感性情報処理

データ処理

音声処理

画像・図形処理

■第3分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

人工知能及び認知科学

基礎理論

自然言語処理

データ処理

テキスト処理

マルチメディア処理

■第4分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ソフトウェア

基礎理論

オペレーティングシステム

データベース・情報検索

プログラミング技術

信頼性と安全性

■第5分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ソフトウェア

プログラム言語及び仕様記述言語

言語処理系

ツール

ソフトウェア工学

■第6分冊……………予約価4,000円(定価6,000円)

ハードウェア

システム

■セット(上記6冊一揃、講演者索引・カバー付)……………予約価24,000円
(定価36,000円)

参加費(プログラム・参加章含む)：会 員 1,000円(賛助会員は正会員に準じます)、
非会員 2,000円、学生 無料

申込締切：平成5年2月12日(金) 必着

(締切後は予約扱いいたしませんので、ご了承ください)

第 46 回 (平成 5 年前期) 全国大会 論文集・参加予約申込書

■申込締切：2月12日（金）必着

分 冊	予 約 価 (円)	部 数	金 額 (円)
第 1 分 冊	4,000		
第 2 分 冊	4,000		
第 3 分 冊	4,000		
第 4 分 冊	4,000		
第 5 分 冊	4,000		
第 6 分 冊	4,000		
セ ッ ト (6冊一揃)	24,000		
参 加 費 (プログラム, 参加章 含む)	会 員 1,000		
	非会員 2,000		
合 計			

平成 年 月 日 (論文集価格は消費税・送料込)
上記の通り予約いたします。

1. 代金は 郵便振替 (東京 5-83484), 銀行振込* (該当にレ印)
送金月日 月 日
*全国大会専用銀行口座「三菱銀行虎ノ門公務部情報処理学会講習会普通口座
No. 0003774」
2. 請求書 通, 納品書 通, 見積書 通が必要です。
〔注意〕 団体名でまとめて送金される場合には, 別紙に送金内訳を記入して事務局
までお送りください。
通信欄:
3. 担当者名 Tel. (内)
4. 申込先: 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27 F
(社)情報処理学会 全国大会係 Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

..... (切りはなさないでください)

(送本先住所) (楷書でハッキリ記入してください)

〒

(機関名)

(氏 名) 殿

(Tel.)

[部数] (記入しないでください)

論 (1 2 3 4 5 6 ⊕) プ・参

「連続セミナー '92」の参加について

—21世紀に生き残るコンピューティングは何か?—

21世紀のパソコンとワークステーションの現状と未来を予測するセミナーを平成3年度に連続6回開催しました。内外の専門家を招いて、6つの視点からこれからのパソコンとワークステーションを考えてゆく試みは参加者の方々をはじめ、広く一般の方々にも大変ご好評をいただけてきました。

平成4年度にはそれらのトピックスをうけて、「21世紀に生き残るコンピューティングは何か」というテーマに発展させて連続セミナーを開催しております。このセミナーもあと2回を残すのみになりました。

そこで、本来は6回連続受講のセミナーですが、特別に1回だけ受講したい方のために、5回、6回に限り、1回だけの方の参加も認めることになりました。多数の方々の参加をお待ちしております。

- 日 時** 第5回 1993年1月21日(木)
第6回 1993年3月11日(木)
- 場 所** 工学院大学312教室(新宿区西新宿)
- 参加費** 会員25,000円, 非会員30,000円, 学生2,000円(各1回)
- 申込締切** 1993年1月18日(月)
- 資 料** 毎回録音テープをもとに議事録を作成し、次回のときに配布します。

〔第5回〕 分散コンピューティングの進展

—分散OSとネットワーク管理—

- 分散OSの動向 徳田 英幸(慶大/CMU)
- ネットワークOSの現状と課題 Jan Newman(ノベル)
- 分散コンピューティングプラットフォームの実際 佐藤 慶浩(YHP)
- パネルディスカッション コーディネータ: 徳田 英幸(慶大/CMU)

〔第6回〕 硬軟技術限界予測

—21世紀の技術—

- 総括 石田 晴久(東大)
- 硬い技術に関する予測 未定(DEC)
- 軟らかな技術に関する予測 孫 正義(ソフトバンク)
- パネルディスカッション コーディネータ: 石田 晴久(東大)

講演者が決定次第ご案内いたします。(英語の講演は同時通訳付きです)

内容が多少変更される場合があります。ご了承ください。

「連続セミナー'92」

参加申込書

平成 年 月 日

標記セミナーの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（1回分）（該当するものを○でかこむ）

正会員，賛助会員 25,000円 非会員 30,000円 学生会員 2,000円

* 参加費には，議事録代が含まれています。

○議事録のみ（1回分）会員 25,000円 非会員 30,000円 _____冊

○送金方法（該当するものを○でかこむ）

合計 _____円を

a) 当日，会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____月 _____日送金します。

c) 銀行振込（いずれも普通預金口座）で

第一勧業銀行新宿西口支店 2049562

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 社団法人 情報処理学会

・送金人名義 _____様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先・送金先（FAX も可）

情報処理学会 連続セミナー係 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27F

Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

.....
(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関・
部課名 _____

フリガナ

氏 名 _____ 殿

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

「マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」開催について

「マルチメディア通信と分散処理」では、OSI を中心とした通信技術から、マルチメディア通信、分散型システム等の種々の分野について活発な研究が行われており、当研究会で多くの論文が発表されてきています。昨年、6月にこの分野で最も権威のある IEEE の ICDCS (International Conf. on Distributed Computing Systems) 国際会議が、横浜で、本研究会を中心として開催され、国内外から多くの優れた論文が発表され、活発な議論が行われました。こうしたなかで、研究活動を活発にするとともに、今後の研究のありかたを検討する時期にきていると思われる。本ワークショップは、合宿形式により、論文発表とともに、広い範囲での多くの議論を行うことが目的であります。

日 時 1993年3月3日(水)午後～3月5日(金) 午前
場 所 湯布院町営国民宿舎 由布山荘
 879-51 大分県大分郡湯布院町大字川上 2927-1 Tel. 0977 (84) 2105, 2106
 大分空港から、空港バスで大分駅(約1時間)、JR で由布院駅(1時間)。
 博多駅から JR 特急(ゆふ号)で、由布院(約2時間30分)。
 JR 由布院駅より徒歩3分(約250m)。
主 催 情報処理学会 マルチメディア通信と分散処理研究会
プログラム 2月号に掲載予定
参加費 (宿泊、懇親会費を含む)
 研究会員 32,000円 学生会員 25,000円
 会 員 37,000円 一 般 42,000円
申込先 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27F
 Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534
 情報処理学会 シンポジウム担当
 2月15日までに、申込書を上記まで郵送。
問合せ先 350-03 埼玉県比企郡鳩山町石坂
 東京電機大学理工学部経営工学科 滝沢 誠
 Tel. 0492 (96) 2911 ext. 2507 FAX 0492 (96) 6185
 e-mail taki@takilab.k.dendai.ac.jp

ソフトウェア工学小規模国際会議 '93 論文募集

Joint Conference on Software Engineering '93 (JCSE '93)

日 程 平成5年11月17日(水)～19日(金)
会 場 福岡リーセントホテル(福岡市内)
主 催 情報処理学会ソフトウェア工学研究会
 Special Interest Group on Software Engineering, The Korea Information Science Society
共 催 情報処理学会九州支部

表記小規模国際会議では、**Full paper, Extended Abstract, Panel Proposal** の募集を行っております。応募論文の形式等、詳細は前号(12月号)会告欄をご覧ください。締切、応募先は下記のとおりです。

応募締切 平成5年3月31日(水)

応募先 152 東京都目黒区大岡山 2-12-1 東京工業大学 工学部 電気電子工学科 佐伯元司
 Tel. 03 (3726) 1111 内 2192 FAX 03 (3729) 1399 e-mail: saeki@cs.titech.ac.jp

「マルチメディア通信と分散処理ワークショップ」

参加申込書

平成5年 月 日

標記ワークショップの参加を下記によって申し込みます。

○参加費 (該当するものを○でかこむ)

会員 37,000 円, 登録会員 32,000 円, 非会員 42,000 円, 学生 25,000 円

*参加費には, 資料代, 宿泊費, 懇親会費が含まれています。

○論文集のみ (4,000 円, 送料込)

○送金方法 (該当するものを○でかこむ)

合計 _____ 円を

a) 当日, 会場受付にて支払います。

b) 現金書留で _____ 月 _____ 日送金します。

c) 銀行振込 (いずれも普通預金口座) で

第一勧業銀行新宿西口支店 2049562

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608

名義人 東京都新宿区西新宿 1-24-1 社団法人 情報処理学会

・送金人名義 _____ 様

* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通, 見積書 通, 納品書 通

請求先 _____

注) 申込書は1枚1人としてください。(コピーで申し込むこと)

○申込先・送金先 (FAX も可)

情報処理学会 ワークショップ係 160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27F

Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

(楷書でハッキリ記入してください)

申込者
連絡先 〒 _____

機関名 _____

フリガナ
氏名 _____

殿 _____

Tel. _____ (ex. _____) FAX _____

会
社



International Symposium on
Autonomous Decentralized Systems
ISADS 93

March 30 - April 1, 1993 • Hitachi System Plaza • Kawasaki, Japan

		Room A	Room B	Room C
Tuesday, March 30	9:30 - 10:40	OPENING SESSION Keynote Address: Japan's Contribution to the World Through Science and Technology Speaker: <i>Hiroshi Inose, NCSIS and MITI, JAPAN</i>		
	11:00 - 12:30	A1: System Architecture Chair: <i>E. Swartzlander (U. of Texas)</i>	B1: Object-Oriented Design Chair: <i>R. C. T. Lai (ISPC)</i>	C1: Intelligent Distributed Computing Chair: <i>L. Simoncini (U. of Pisa)</i>
	14:00 - 15:30	Plenary Panel P1: The Requirement and Role of ADS in Real-World Applications Chair: <i>H. Kopetz, T. U. Vienna, Austria</i>		
	16:00 - 17:30	A2: Cooperative System Components I Chair: <i>J. Pasquale (UCSD)</i>	B2: Programming Paradigms Chair: <i>F. J. Wang (N. Chiao-Tung U.)</i>	C2: Robotics Chair: <i>J. W. Cho (KAIST)</i>
Wednesday, March 31	9:30 - 10:30	Keynote Address: The High Performance Computing & Communications Initiative in the U.S. Speaker: <i>A. Nico Habermann, NSF, USA</i>		
	11:00 - 12:30	A3: Cooperative System Components II Chair: <i>H. Wedde (Wayne State U.)</i>	B3: Scheduling Chair: <i>H. Tokuda (Keio U.)</i>	C3: Mobile Robots Chair: <i>C. W. Wang (Beijing I.S.E.)</i>
	14:00 - 15:30	Plenary Panel P2: Are Autonomy and Predictability Antagonistic Concepts? Chair: <i>G. Le Lann, INRIA, France</i>		
	16:00 - 17:30	A4: Computer Supported Cooperative Work Chair: <i>J. Kann (Allen-Bradley)</i>	B4: Protocols Chair: <i>D. J. Farber (U. of Penn.)</i>	C4: Fault-Tolerant Decentralized Control Chair: <i>R. Schlichting (U. of Arizona)</i>
Thursday, April 1	9:30 - 10:30	Keynote Address: In Search of Service Engineering: The RACE Experience Speaker: <i>Mario Philip Campolargo, Commission of the European Communities, Belgium</i>		
	11:00 - 12:30	A5: Decentralized Real-Time Systems Chair: <i>E. D. Jensen (DEC)</i>	B5: Transportation Systems Chair: <i>M. Ito (Nagoya U.)</i>	C5: Algorithms for Decentralized Applications Chair: <i>D. Farguson (IBM)</i>
	14:00 - 15:30	A6: Highly Available Systems Chair: <i>T. Masuda (U. of Tokyo)</i>	B6: Flexible Manufacturing Systems Chair: <i>C. M. Park (PIST)</i>	C6: Modeling Living Systems Chair: <i>C. V. Ramamoorthy (UCB)</i>
	16:00 - 17:30	Plenary Panel P3: The Future of Autonomous Decentralized Systems Chair: <i>D. Ferrari, UCB, USA</i>		
Friday, April 2	7:30 - 19:00	PLANT TOUR Kawasaki Steel Corporation & Central Japan Railway Company		

問い合わせ先： 〒215 川崎市麻生区王禅寺1099 (株) 日立製作所 システム開発研究所
 ISADS事務局 森 欣司 Tel: 044-966-9111 Fax: 044-966-9243

詳細内容は次号に掲載します。

「利用者指向の情報システム」シンポジウム論文募集 —新しい情報化の潮流と組織のリストラクチャリング—

情報システムが個人から一般社会にいたるさまざまな組織に広く普及・浸透してきた今日、利用者を指向した情報システムをいかに実現するかが重要な課題となっている。この課題に取り組むには、組織と情報システム双方における情報の生産・流通・利用過程の絡みを幅広い視点から捉えて、情報システムの設計と構築を論じる必要がある。

とくに、最近ではネットワーク化、オープン化、ダウンサイジング化などの新しい情報化の潮流に対して、組織のリストラクチャリングや人材の育成が急務となってきた。そこで、本シンポジウムでは、このような新しい情報化の潮流の動向ならびにそれに対処するための情報システムの研究動向、方法論、具体的事例等について、発表・討論をおこなう。

日 時 平成5年6月18日(金)～19日(土)

場 所 日本ユニシス豊洲本社

トピックス

- 技術動向・社会情勢からのインパクトと将来展望
- システムインテグレーション、ダウンサイジングにおける諸問題
- 分散化、ネットワーク化における諸問題
- 組織および情報システムのリストラクチャリング
- 人材養成、教育
- システムの開発事例と適用分野
- ニーズの発掘方法、利用者・運用者・管理者とのコミュニケーション手段
- 情報システムの計画・分析・開発・評価の方法論と適用事例
- 情報システムのモデル化とその評価
- 環境整備とツール、プロジェクト管理、その他

実施方法

- (1) 学術的な研究論文のみならず、経験事例の報告、問題提起、アイデアの提案などの論文も歓迎する。
- (2) 応募する場合は、アブストラクト(A4判用紙1枚)を平成5年2月5日(金)までに提出すること。
- (3) 採否の決定は、平成5年2月26日(金)までに連絡する。
- (4) 本論文は、原則として和文(1,548字詰研究会原稿用紙10枚以内)とし、平成5年5月7日(金)までに提出すること。
- (5) 採択論文については論文集に収録する予定である。

申 込 先 (社)情報処理学会「利用者指向の情報システム」シンポジウム係
160 東京都新宿区西新宿 1-24-1 エステック情報ビル 27階
Tel. 03 (5322) 3535 FAX 03 (5322) 3534

問 合 せ 先 本シンポジウムに関するお問合せは、下記までお願いします。
情報処理学会・情報システム研究会 幹事 槻木 公一(つきぎ・こういち)
185 東京都国分寺市光町 2-8-38
鉄道総合技術研究所 SI事業推進部 Tel. 0425 (73) 7309

支 部 だ よ り

東海支部 講演会

日 時 平成5年1月29日(金) 14:00~16:00
 場 所 信州大学工学部 102 番講義室
 演 題 日本の Internet と TCP/IP の最近の話題 加藤 朗 (慶大)
 参加費 無料 (参加資格は問いません)
 問合せ先 380 長野市若里 500 信州大学工学部情報工学科 山本 博章
 Tel. 0262 (26) 4101

関西支部 第2回 ソフトウェア研究会

日 時 平成5年1月25日(月) 13:00~17:00
 会 場 (財)関西情報センター会議室 (大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階)
 定 員 約50名(申込み順)
 参加費 ソフトウェア研究会メンバの方 不要
 メンバ以外の方 600円(当日ご持参ください)
 テーマ 「グラフィカルユーザインタフェースとその構築支援」
 ユーザインタフェースの考え方 高橋延匡 (農工大)
 Open Interface とオブジェクト指向を用いた GUI 構築事例 畑田浩司 (大日本スクリーン製造)
 NeXT Step による GUI 構築支援 (仮題) 未定
 鼎 (かなえ) による GUI 構築の実際 佐野建樹 (日電)
 総合討論
 申込・問合せ先 530 大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階
 (財)関西情報センター内 情報処理学会関西支部 大矢
 Tel. 06 (346) 2543

セミナー「遺伝的アルゴリズム, カオス」

日 時 平成5年1月19日(火), 20日(水)
 [第1日] 10:00~16:45 [第2日] 9:30~17:15
 会 場 三田出版会大会議室 (大阪市北区中崎西 2-4-12, 梅田センタービル31階) Tel. 06 (373) 8800

プログラム

[第1日]

10:00~12:30

1. 遺伝的アルゴリズムの基礎, 課題, 展望 和田健之介 (中京大)

12:30~13:30 (昼食・休憩)

13:30~15:00

2. 「遺伝的アルゴリズムによるアルゴリズムのハイブリッド化」 相吉英太郎 (慶大)

15:00~15:15 (休 憩)

15:15~16:45

3. 遺伝的アルゴリズムの応用 市川芳明 (日立)

[第2日]

9:30~12:00

4. カオス理論の基礎とカオス現象 上田皖亮 (京大)

12:00~13:00 (昼食・休憩)

13:00~14:30

5. カオスと情報処理機能 奈良重俊 (岡山大)

14:30~14:45 (休 憩)

14:45~16:15

6. カオス応用のケースタディ (短期予測, 状態推定など) 松葉育雄 (日立)

16:15~17:15

7. カオス・シミュレータ 片山 立 (三洋電機)

定 員 100名

参加費 会員:20,600円 非会員22,660円

申込・問合せ先 530 大阪市北区梅田 1-3-1-800 大阪駅前第1ビル8階

(財)関西情報センター内 情報処理学会関西支部 Tel. 06 (346) 2543

四国支部 医用画像工学研究会

日 時 平成5年1月22日(金)9:00~18:00

会 場 徳島大学附属図書館大視聴覚室(3階)(徳島市南常三島町2-1)

プログラム (講演時間18分, 討論時間5分)

- 9:00~ 1. 多チャンネル SQUID と MRI 情報による3次元 MEG 解析
林田知子, 政清史晃, 仁木 登, 西谷 弘 (徳島大), 田村逸郎 (大阪ガス)
- 9:23~ 2. 高速X線回転方式による血管3次元再構成法
河田佳樹, 仁木 登 (徳島大), 佐藤 均 (東芝), 隈崎達夫 (日本医大)
- 9:46~ 3. 脳血管の3次元構成に関する研究 関 陽, 藤井 進, 熊本悦子, 塚本康夫 (神戸大)
- 10:09~ 4. X線映画血管造影像からの2次元血流速度分布の推定
杉本直三, 宇山親雄, 菅原徹雄, 柳原圭雄 (国立循環器センター)
— 休 憩 (5分) —
- 10:37~ 5. ニューラルネットワークを用いた血管心線の構造解析
岡本容典, 藤井 進, 熊本悦子, 塚本康夫 (神戸大)
- 11:00~ 6. ニードル型 CCD 顕微鏡による心筋壁内膜側微小血管の観察
小笠原康雄, 矢田豊隆, 平松 修, 辻岡克彦, 梶谷文彦 (川崎医科大)
- 11:23~ 7. 高精細 MR アンギオグラフィーに関する考察 佐野耕一 (日立システム開研)
- 11:46~ 8. 強傾斜磁場 MRI による動きアーティファクト除去
唐 力, 田村進一, 佐藤嘉伸, 内藤博昭, 原田貢士, 小塚隆弘 (阪大)
— 昼 食 (60分) —
- 13:10~ 9. 動く被写体のCT画像に生じるアーチファクトについて 坂本 隆, 佐藤俊輔 (阪大)
- 13:33~ 10. Kaczmarz 画像再構成法に関する2, 3の考察 譚 玉峰, 佐藤俊輔 (阪大)
- 13:56~ 11. 肺癌検診用 CT (LSCT) の開発とその事前評価 飯沼 武, 松本 徹, 館野之男 (放医研)
- 14:19~ 12. X線3次元CTによる肺ガン検診システムの基礎研究
金沢啓三, 河田佳樹, 仁木 登, 西谷 弘 (徳島大), 佐藤 均 (東芝)
— 休 憩 (5分) —
- 14:47~ 13. 3次元X線CT像に基づく肺がん候補領域の自動抽出
森 健策 (名大), 長谷川純一 (中京大), 鳥脇純一郎 (名大), 安野泰史, 片田和廣 (藤田保健大)
- 15:10~ 14. エネルギー差分胸部X線画像による肺腫瘍影の検出
澤田 晃, 佐藤嘉伸, 木戸尚治, 田村進一, 小塚隆弘, 豊田順一 (阪大)
- 15:33~ 15. Computer Aided Interpretation of Brain CT Images 巖 壮志, 英保 茂, 田中 寛 (京大)
- 15:56~ 16. マルチチャンネル MR 画像の3次元認識支援ツール
福森幸雄, 熊村昭治, 仁木 登, 西谷 弘 (徳島大), 佐藤 均 (東芝)
— 休 憩 (5分) —
- 16:24~ 17. 脳神経外科向き対話的3次元医用画像解析と手術計画支援
宮澤達夫 (IBM 東京基礎研), 大槻泰介 (国立療養所), 吉田 亮, 木村雅彦 (IBM 東京基礎研)

- 16:47~ 18. 腔内照射放射線治療の最適化に関する研究
熊本悦子, 藤井 進, 三宅敏之, 染田敏彦, 塚本康夫 (神戸大), 松尾導昌 (天理病院)
- 17:10~ 19. 人工心臓設計のための心臓・胸腔形状の計測
宇山親雄 (国立循環器センター)
- 17:33~ 20. 手術シミュレーションシステム—その光と影
周藤安造 (東海大)
- なお, OHP およびスライドは用意しております。ビデオをご使用の方は事前にご連絡ください。

参加費 無料 (ただし, 研究会資料は 2,000 円を予定しています)

懇親会 22日 18:30 より懇親会を予定しています。

申込・問合せ先 徳島市南常三島町 2-1 徳島大学工学部知能情報工学科 仁木 登
Tel. 0886 (23) 2311 (内 4743) FAX 0886 (54) 9632

北陸支部 講演会

- 日時** 平成 5 年 2 月 24 日 (水) 13:30~15:30
- 場所** (株)PFU 本社 (石川県河北郡宇ノ気町宇野気ヌ 98-2)
- 演題** 情報化社会・マルチメディア・画像符号化 宮原 誠 (北陸先端大)
- 参加費** 無料 (参加資格は問いません)
- 問合せ先** (株)PFU 第四開発部 第三ソフトウェア部 第四ソフトウェア課 浜井 淳二
Tel. 0762 (83) 1212 (内 2501)

北海道支部 平成 4 年度 北海道支部奨励賞の表彰

平成 4 年度北海道支部奨励賞は, 下記 2 君に授与されました。

- 論文発表** 平成 4 年度北海道支部大会 (電気関係学会北海道支部連合大会)
平成 4 年 10 月 10 日~11 日 北見工業大学
- ・ファジィ推移的結合問題の特殊解について
若林 高明君 (北海道大学工学部, 昭和 40 年 12 月 3 日生)
 - ・オンライン手書き曲線認識のためのファジィ・スプライン補間法
佐賀 聡人君 ((株)テクノバ, 昭和 35 年 3 月 7 日生)

情報処理学会北海道支部結成 10 周年記念

情報処理学会北海道シンポジウム '93—Info-Hokkaido '93—

- 日時** 平成 5 年 4 月 22 日 (木), 23 日 (金) 9:00~17:00
- 会場** 北大学術交流会館 (札幌市北区北 8 条西 5 丁目)
北大工学部情報工学科計算機室 (札幌市北区北 13 条西 8 丁目)
- 特別講演** 22 日 (木) 13:00~14:40 (聴講自由, 聴講無料) (北大学術交流会館)
- 演題** 北海道の自然と生物 坂本 与市 (北海道文理科短大)
- 招待講演** 23 日 (金) 13:00~15:00 (聴講自由, 聴講無料) (北大学術交流会館)
- 演題** ① ロボティクスの現状と将来 嘉数 侑昇 (北大)
② コンピュータ・グラフィクスとアート 竹村 伸一 (北海道支部初代支部長)
- 一般講演** 22 日 (木), 23 日 (金) 9:00~17:00 (聴講自由, 聴講無料) (北大学術交流会館)
- 講演者** 特に制限なし (登壇者発表は一人一件とする)
- 講演内容** 情報処理に関する最近行った研究および調査の報告, 新しい企画および開発の報告, 新製品 (ソフトウェア, ハードウェア, システム) の紹介など
- 講演時間** 形式(1) 15 分以内 (質疑応答時間を含む)
形式(2) 30 分以内 (質疑応答時間を含む)
- 講演形式** OHP の使用のみとする
- 講演予稿** オフセット印刷による
公募原稿は所定の原稿用紙を使用すること
講演者には講演論文集を 1 部進呈する (別刷は取り扱わない)

- 申込方法** 下記の事務局への申し出により講演申込書と原稿用紙を交付する
- 講演参加費** 予稿1頁につき2,000円(但し、4頁以内とする)
- 原稿提出先** 下記の事務局
- 原稿提出締切** 平成5年3月12日(金)午後5時必着
講演申込書および原稿に講演参加費を添えて提出すること
- チュートリアル** UNIX 実習—入門からネットワーク応用まで—北大情報工学科のカリキュラムにそって—
- 日時** 22日(木), 23日(金) 9:00~12:00
- 会場** 北大工学部情報工学科計算機室
- 講師** 工藤 峰一, 野中 秀俊, 外山 淳(北大)
- 参加費** 参加費(含むテキスト代)は事前に銀行振込みを原則とします
情報処理学会会員および賛助会員 6,000円
一般 10,000円
学生(大学院生を含む) 3,000円
- 申込方法** 電話または官製ハガキで, 住所, 氏名, 電話番号, 所属学会, 勤務先または大学名・学科・学年を下記の事務局まで連絡すること,
申込みは, 開催日の2週間前まで, 定員(50名)になり次第締め切り
- 事務局** 060 札幌市北区北13条西8丁目 北大工学部情報工学科内
情報処理学会北海道支部 Tel. 011 (716) 2111 (内 6819)

平成5年度 会費および論文誌購読費の納入について

あけましておめでとうございます。昨年同様に本年もよろしくお願い申し上げます。

早速ですが、平成5年度会費および購読費の納付書(郵便振替用紙)を1月中旬に発送いたします。会費および購読費は前納を原則としておりますので、3月末日までに率先してご納入くださいますようお願いいたします。

ただし、4年度請求額に対する不足額がありますと、3月号から送本を停止させていただきます。未納分につきましては、必ず**2月20日**までに納入ください。(会費未納者には9月号から送本を停止いたしております。)

また、「論文誌」(月刊)は有料頒布です。まだ購読されていない方は新年度から購読されることをお勧めいたします。新規購読希望の方はその旨を振替用紙裏面の通信欄にご記入くださるか、11月号本欄添付の購読申込書によりお申込みください。

会費・購読費は前年度と同じで据え置きです。

会 費 正会員 9,600円 学生会員 4,800円
論文誌購読費(年間) 4,500円

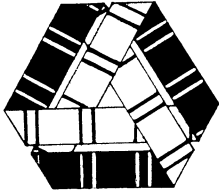
※「欧文誌」は「論文誌」と統合されたため、平成5年1月より休刊となりました。

[自動振替納入利用の会員の方へ]

会費および購読費を3月29日(月)に振替いたします。

振替金額は3月上旬にご通知いたしますので、預金残高をご確認いただき、振替額不足にならないようご留意ください。振替された場合には、預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」「コウザフリカエ」または「DF・ジョウショカイヒ」と印字されます。

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（*：本年既掲載分，**：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 72 円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

Advanced Technology Short Courses on Communication Systems Signalling and Networks

(084)

- 1.2. March 8-12, 1993, Switzerland October 18-22, 1993, Spain November 15-19, 1993, UK
3. Mrs Tina Persson, Marketing Manager, CEI-Europe, PO Box 910, S-612 25 FINSPONG, Sweden. Phone +46-122-17570, Telefax +46-122-14347.

IEEE Int'l. Workshop on NEURO-FUZZY CONTROL

(085)

1. 1993年3月22日(月)~23日(火)
2. 北海道室蘭市
3. 主催：米国電気電子学会
問合せ先：室蘭工業大学工学部情報工学科
土手 康彦, 佐藤 一彦
Tel. 0143 (44) 4181 (内 2444), FAX 0143 (47) 3374
4. 参加費：一般 35,000 円, 学生 10,000 円

IUMRS-ICAM-93—第3回 IUMRS 先進材料国際会議

(086)

1. 1993年8月31日(火)~9月4日(土)
2. サンシャインコンベンションセンター TOKYO (東京・池袋)
3. 日刊工業新聞社 事業局国際事業部
Tel. 03 (3222) 7162, FAX 03 (3221) 7137
4. アブストラクト締切：1993年1月31日

4th European Software Engineering Conf.

(087)

1. September 13-17, 1993
2. Garmisch, Germany
3. Prof. Dr. M. Paul, Institut für Informatik, Technische Universität München, Orleansstr. 34, D-8000 München 80, Germany FAX +49-(0)89-48095160, E-mail : esec@iaformatik.tu-muenchen.de

IFIP Working Conf. "Software Engineering Education"

(088)

1. 1993年9月28日~10月2日
2. 香港
3. 国内連絡先：九州工業大学情報工学部知能情報工学科 大槻 説乎
Tel. 0948 (29) 7618, FAX 0948 (29) 7601
E-mail : otsuki@ai.Kyutech.ac.jp
4. 論文締切：1993年1月31日

IJCNN '93—Nagoya—神経回路網国際会議

(089)

1. 1993年10月25日(月)~29日(金)
2. 名古屋国際会議場(名古屋市熱田区)
3. IJCNN '93-NAGOYA 事務局
トラベルプラザインターナショナル中部
Tel. 052 (561) 9880/8655, FAX 052 (561) 1241
4. 論文投稿締切：1993年4月30日

The 2nd Int'l. Workshop on Intelligent Signal Processing and Communication Systems: ISPACS '93

(090)

1. 1993年10月27日(水), 29日(金)
2. 東北大学工学部青葉記念会館(仙台市青葉区)
3. 東北大学工学部電子工学科 川又 政征
Tel. 022 (263) 9411, FAX 022 (263) 9411
4. アブストラクト締切：1993年5月10日

Asia Pacific Information Technology in Training and Education Conf. and Exhibition (APITITE)

(091)

1. 1994年6月28日~7月2日
2. オーストラリア
3. 国内連絡先：九州工業大学情報工学部知能情報工学科 大槻 説乎
Tel. 0948 (29) 7618, FAX 0948 (29) 7601
E-mail : otsuki@ai.Kyutech.ac.jp
4. 論文締切：1993年7月31日

13th World Computer Congress IFIP Congress '94

(092)

1. August 28-September 2, 1994
2. Hamburg, Germany
3. IFIP '94 c/o Congress Centrum Hamburg Congress Organisation P. O. Box 302480 W-2000 Hamburg 36, Germany Tel. : +4940/3569-2242, FAX : +4940/3569-2343, Telex : +212609
4. 9th Symposium Informatics for Environmental Protection (August 24-26) と CAPE '94 (August 25-27) が同会場で開催されます

国内会議

第194回講習会「変る特許戦略—守りから攻めへ—」

1. 平成5年2月17日(水)
2. 化学会館(東京都千代田区神田駿河台)
3. (社)精密工学会
Tel. 03 (3362) 1979, FAX 93 (3367) 0994
4. 参加費：正会員 28,000 円, 非会員 42,000 円, 学生会員無料

講習会「知識獲得とファジィ・ニューラルネット」

1. 1993年3月19日(金)
2. 三田出版会(東京都文京区本郷)
3. 日本ファジィ学会事務局
Tel. 045 (212) 8253, FAX 045 (212) 8256
4. 参加費: 正会員 15,000円, 非会員 20,000円, 学生会員 7,000円

第3回 ロボットシンポジウム

1. 1993年5月25日(火)~26日(水)
2. 大阪大学基礎工学部シグマホール(豊中市)
3. (社)日本ロボット学会 シンポジウム係
Tel. 03 (3812) 7594, FAX 03 (3812) 4628
4. 講演申込締切: 1993年2月24日(水)

第8回 産業における画像センシング技術シンポジウム

1. 平成5年6月10日(木)~11日(金)
2. パンフィコ横浜(横浜市西区みなとみらい)
3. (社)日本非破壊検査協会
Tel. 03 (3863) 6521, FAX 03 (3863) 6524
4. 講演申込締切: 平成5年3月1日(月)

神経回路学会第4回 全国大会

1. 1993年7月20日(火)~23日(金)
2. 福岡県飯塚市
3. 九州工業大学情報工学部 安井 湘三
Tel. 0948 (29) 7714, FAX 0948 (29) 7709
E-mail: yasui@ces.kyutech.ac.jp
4. 原稿締切: 1993年4月18日

電気学会電力・エネルギー部門平成5年大会

1. 平成5年7月28日(水)~30日(金)
2. 北海道大学工学部(札幌市北区)
3. (社)電気学会
Tel. 03 (3201) 0983, FAX 03 (3201) 1983
4. 講演申込締切: 平成5年2月26日

教官募集



○大学等情報関係教官募集

愛知教育大学総合科学課程情報科学コース

募集人員 助手1名
 専門分野 情報工学・計算機科学
 担当予定 言語理論, 計算理論など
 応募資格 大学院修士課程修了以上の者で, 研究上および教育上の能力があると認められる者。
 ただし, 昭和38年4月2日から昭和43年4月1日までに生まれた者に限る。

採用予定 平成5年4月1日
 応募締切 平成5年1月26日
 提出書類 履歴書, 研究業績一覧および論文別刷(コピーも可)健康診断書, 推薦書。

送付先 448 刈谷市井ヶ谷町広沢 1
 問合せ先 愛知教育大学人事課人事係
 Tel. 0566 (36) 3111 (内 226)

福岡工業大学管理工学科

募集人員 教授, 助教授または講師1名
 所属 管理工学科
 専門分野 確率統計, 数理経済の分野
 (基礎から応用まで幅広く考えております)
 担当科目 管理工学基礎または社会システム工学(統計学, 経済統計論など)
 応募資格 専門分野に研究業績があり, 博士の学位を有する者, または着任時までに取得確実な者。教育経験のある者が望ましい。
 教授は年齢55歳以上の者。
 助教授, 講師は年齢40歳以下の者。

着任時期 平成5年4月1日
 応募締切 平成5年1月30日
 提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文の別刷。

送付先 811-02 福岡市東区和白東 3-30-1
 福岡工業大学教務課長 石田隆男
 Tel. 092 (606) 3131 (内 2242)

問合せ先 福岡工業大学管理工学科
 教室主任 鶴岡 久(内 2336)
 備考 大学院(修士課程・計画中)の研究指導が可能な者。

関東学園大学経済学部

募集人員 助手または専任講師1名
 担当科目 経済学部における専門科目である情報処理実習
 応募資格 助手 大学院修士課程修了以上で教育研究能力のある者。
 専任講師 大学院博士課程単位取得者またはこれと同等の研究能力のある者。
 専門分野における研究業績を有する者。
 いずれも経済学または経営学分野における計算機応用に関心があることが望ましい。

着任時期 平成5年4月1日
 提出書類 履歴書, 研究業績リストおよび主要な研究業績と考えるもの3点(著書または論文, コピー可)。

応募締切 平成5年1月31日
 送付先 373 群馬県太田市藤久 200
 関東学園大学教務部宛
 「教員応募書類在中」と朱書き, 書留。

問合せ先 関東学園大学経済学部教務課長 竹添長和
 Tel. 0276 (31) 2711
 FAX 0276 (31) 2708

筑波技術短期大学デザイン学科

募集人員 助教授または講師1名
 所属 デザイン学科
 専門分野 プロダクトデザイン, CAD・CG
 授業担当科目(予定) 画像処理方法論・実習等, プロダクトデザイン論。

応募資格 上記専門分野において学生を教育・指導できると同時に聴覚障害者教育に熱意のあること。
 年齢35~45歳程度

提出書類 ①履歴書, ②業績目録, ③全業績リスト, ④主要論文, 作品2点程度, ⑤他薦は推薦書, 自薦は所見書。
 *①②は別紙様式による, ③は書式適宜。

応募締切 平成5年1月31日
 送付先 305 つくば市天久保 4-3 庶務課人事係

問合せ先 筑波技術短期大学デザイン学科主任 松岡忠雄
Tel. 0298 (58) 9351
FAX 0298 (58) 9361 (学科共用)
筑波技術短期大学デザイン学科 小池田康夫
Tel. 0298 (58) 9350
FAX 0298 (58) 9361

福井大学工学部情報工学科

募集人員 助教授または講師のいずれか1名
専門分野 プログラミング言語, データベースシステム, ソフトウェア工学, 基本ソフトウェア, 基礎理論などの情報処理関連分野.
応募資格 (1)年齢40歳位までの者, (2)情報科学の分野で研究実績があり, 博士の学位を有するか取得が確実な者. 近い将来, 博士の学位取得が有望な者については実績により助手として採用することも有り得る.
着任時期 決定後, なるべく早い時期.
提出書類 履歴書, 研究業績目録, 主要論文別刷り, 研究計画(書式自由).
平成5年2月28日
応募締切
送付先 910 福井市文京3丁目9番1号
福井大学工学部情報工学科主任 浅田勝彦
「情報工学科教官応募書類在中」と朱書き, 書留.
問合せ先 Tel. 0776 (23) 0500 (内 2881) または 0776 (27) 8577 (直)

北見工業大学工学部情報工学科

募集人員 教授1名
所属 パターン情報工学講座
専門分野 パターン認識, 画像処理, 音声情報処理, コンピュータ・グラフィックス, 自然言語処理, ヒューマン・インタフェース, ニューラルネットワーク, データベースシステム, ソフトウェア工学
応募資格 年齢は40歳以上60歳位まで.
博士の学位を有し, 上記分野で研究業績のあること.
着任時期 平成5年4月1日以降なるべく速やかに.
提出書類 履歴書(連絡先を明記のこと), 研究業績目録, 主要論文別刷り, これまでの簡単な研究経過, 上記専門分野における研究計画.
応募締切 平成5年3月31日(適任者が決定次第締切することもある)

送付先 090 北見市公園町165
問合せ先 北見工業大学工学部情報工学科主任 藤原祥隆
Tel. 0157 (24) 1010 (内 298)
FAX 0157 (22) 7629 (情報工学科事務室)
「情報工学科教官応募書類」と朱書き書留.

電気通信大学電気通信学部電子情報工学科

募集人員 助教授または講師1名
所属 電子情報学科
専門分野 通信工学(通信方式, 情報通信, ネットワーク, 信号理論, 信号処理, 回路システム学)
担当科目 電子・通信工学の基礎および関連専門科目
応募資格 博士の学位を有する者. 関連の専門分野で実績があり, 大学院電子情報学専攻の講義または研究指導担当可能な者で32~45歳位までが望ましい.
着任時期 できるだけ早い時期
提出書類 履歴書, 研究業績リスト, 主要論文別刷, 研究計画書推薦書(添付することが望ましい).
平成5年3月31日
応募締切
送付先 182 調布市調布ヶ丘1丁目5-1
問合せ先 電気通信大学電気通信学部電子情報工学科
教授 岩倉博
Tel. 0424 (83) 2161 (内 3132, 3171)
FAX 0424 (89) 3780

立命館大学理工学部電気電子工学科

募集人員 教授または助教授1名
専門分野 計算機工学または計算機関連分野
応募資格 年齢55歳位までで, 博士の学位を有する者.
着任時期 平成6年4月1日
提出書類 履歴書, 業績リスト(論文, 著書, 学会講演, その他に分けて記入), 主要論文別刷, 健康診断書, 研究, 教育に対する抱負について記す. 形式は指定しません.
応募締切 平成5年5月31日
送付先 603-77 京都市北区等持院北町56-1
問合せ先 立命館大学理工学部電気電子工学科
三木秀二郎(学科主任)
Tel. 075 (465) 1111 (内 3736)
FAX 075 (465) 8238
または杉本末雄(内 3737), 岡田正勝(内 3667)

雑報



○情報科学国際交流財団の平成5年度助成募集

情報科学国際交流財団は, 情報科学の国際交流推進事業の一環として, 将来を担うべき有能な研究者の国際的研究交流に要する費用の一部を助成いたします。年間80名から100名程度の方の助成を予定しております。

1. 助成の種類(渡航目的)

(1) 研究者海外派遣助成

海外で開催される情報科学に関する国際会議で研究論文発表もしくは招待講演を行うために渡航する若手の研究者(留学生も可)に, その渡航費および滞在費の一部を助成いたします。

(2) 外国人研究者交流助成

下記①, ②に要する渡航費および滞在費の一部を助成いたします。申請は受入れ者または外国人研究者本人のどちらでも可。ただし, 受入れ側が申請者となる場合は和文申請書, 外国人研究者が申請者となる場合は英文申請書を使用してください。

① 情報科学に関する国際会議(開催地は日本以外も可)で研究論文発表もしくは招待講演を行う外国人研究者の受入れ。

② 学術研究機関での調査研究また共同研究を行う外国人研究者の受入れ。

2. 応募の資格

(1) 情報科学に関する基礎的な学術研究活動を行う研究者であること。

(2) 大学等学術研究機関またはこれと同等と認められる機関に所属する研究者(大学院生も可)であること。

(3) 所属機関の長、国際会議の組織委員長等、当財団の役員・評議員のいずれかの推薦があること、

(4) 国際会議参加の場合は、論文採録通知または招待状があること。ただし、論文審査中の場合はその旨を明記し、通知があり次第、報告すること。

3. 応募の方法

渡航目的によって様式が異なりますので、所定の申請書および審査資料に必要な事項を記入し、当財団に提出してください。なお、複写して申請しても結構です。

4. 助成金額

原則として、地域別に15~35万円の定額とします。

5. 対象渡航期間および締切日

渡航時期によって募集期が3期に分かれておりますので、下表を参考に申請してください。ただし、外国人研究者交流助成で、予定渡航日の3か月以上前に選考結果が必要な場合は、募集期を繰り上げて申請しても結構です。

募集期	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
前期	募集 締切11/31日		結果		渡航期間												
中期		募集 締切3/31日		結果		渡航期間											
後期						募集 締切7/31日		結果		渡航期間							

6. 選考結果通知

助成の決定は当財団選考委員会の審査を経て理事長が行い、結果は締切日の1か月後に通知いたします。

7. 照会先および申請書提出先

107 東京都港区南青山 5-10-5 九曜ビル 903
(財)情報科学国際交流財団
Tel. 03 (5466) 1761 FAX 03 (5466) 1762

○C&C 振興財団「国際会議論文発表者助成候補者募集」

海外で開催される国際会議において、半導体デバイス技術、情報処理技術、電気通信技術およびこれらの融合する技術分野

に関する論文発表をする研究者に対して、その会議出席のための費用を補助します。

助成金額 10万円~32万円 (なお、会議開催地により増減します。)

助成対象者 国内の大学または国立およびこれに準ずる研究所に在籍する研究者 (原則として、40歳以下) を対象とします。

推薦の方法 財団所定の推薦書に従い、候補者の所属大学または機関の上司の推薦を得て、財団事務局まで直接提出してください。推薦書の入手をご希望の方は、財団事務局までお申出ください。

区分	募集締切日	助成対象の国際会議の期間
平成5年度前期	平成5年2月26日	平成5年5月1日~ 同年11月末日
平成5年度後期	平成5年8月27日	平成5年11月1日~ 平成6年5月末日

問合せ先 108-01 東京都港区芝 5-7-1
(財)C&C 振興財団 (担当御宿)
Tel. 03 (3457) 7711 FAX 03 (3798) 6599

第24回 (平成5年度) 三菱財団自然科学研究助成候補者募集

重点対象分野

- (1) 原理的に新しい実験方法の開発に関する研究
- (2) 工学における境界分野の基礎研究
- (3) 工学的システムとデバイスの基礎研究
- (4)~(10) 省略

なお、すぐれた独創的なものは上記以外の研究でも積極的にとりあげます。

助成の金額と期間

金額 総額約3億円を予定、1件2千万円以内 (本年度は30件程度を目標)。

期間 1年を原則とします。

応募締切日 平成5年3月2日 (火)

問合せ先 100 東京都千代田区丸の内 2-5-2 (三菱ビル 15階)
(財)三菱財団 Tel. 03 (3214) 5754

事務局だより

新年あけましておめでとうございます。

昨年は学会本部事務局の移転を行ったためか、非常に早く過ぎ去ったように感じております。

新事務局に移って3か月、今までと一番変わったのは、会議室を事務局内に設けたことにより会議に出席される役員や委員、用務の途中に立ち寄られる方々など、前の事務局に比べると、会員をはじめ多くの方々にお出でいただけ、事務局員にも良い意味で刺激があり、事務局の活性化につながっていることでしょうか。

しかし、経済情勢の厳しさは続いており、その中でも情報処理関連の企業は一部を除いて、特に厳しい状況と承っております。また、情報処理に関する学術、技術、研究・開発分野の広がりや専門化への対応など、早急な解決が難しい問題もあり、本号の本会記事第370回理事会「部会検討委員会中間報告」に記されている検討が進められております。このような状況のなか、本学会も一時期のような急成長は望めなくなっており、学会活動の

基本的な検討・構想により、地味な努力を続ける時が来たのではと考えております。

論文誌をお読みの方には、新しい装いで、和文と英文を分野別に統合収録した新「論文誌」を、本号とはほぼ同時にお届けしております。あわせて本文の用紙も5年ぶりに、カラー印刷も可能な白色系の紙にかえることになりました。事務局も論文投稿と購読者の増加を期待しております。

本年の主な行事として、①第46回全国大会が3月23日から26日に工学院大学 (新宿)、②第47回全国大会が10月5日から8日に鳥取大学 (鳥取市)、③ISADS (自律分散国際会議) が3月30日から4月1日に日立システムプラザ (川崎市)、④IFIP GA (情報処理国際連合総会) が9月6日から10日に工学院大学 (新宿) で開催されます。このほかの行事についても関係委員、会員の方々のご協力とご参加をお願い申し上げます。とともに本年も事務局へのご指導、ご支援を重ねてお願いする次第です。
(1992.12.25 飯塚 浩司)

論文査読をお願いした方々へ

論文誌編集委員会

学会の機関誌、なかでも論文誌の刊行は学会の最も重要な活動の一つであります。それだけに論文の査読にあたっては、内容の技術的水準や、読み易さなどを定める非常に責任の重い仕事であります。その性格上、直接報いられることの少ない、奉仕的なものにならざるを得ません。とくに論文誌は複数の査読者による並列査読を実施しており、多くの方々に大変なご無理とご協力、ご尽力をお願いいたしております。

もとより平成4年1月から12月までにご査読をお願いした方々のお名前の一覧表を掲げるだけでは、査読者のご苦勞の万分の一にも報いたことにならないことは明らかであります。ここに学会としての感謝の意の一端を表わすとともに、論文誌をさらに充実したものとしてゆくために、今後とも一層のご協力をお願いする次第です。

相澤 輝昭	相田 仁	相場 亮	阿江 忠	川口 剛	川越 恭二	河田 勉	河田 汎
青島 伸治	青山 幹雄	秋葉 澄孝	秋山 泰	韓 太舜	上林 彌彦	菊地 豊	岸本 了造
阿草 清滋	麻田 治男	浅田 稔	浅野正一郎	北嶋 克寛	北野 宏明	北橋 忠宏	喜連川 優
浅野 孝夫	浅野 哲夫	鯉坂 恒夫	麻生川 稔	木戸出 正継	木庭 淳	絹川 博之	木下 研作
安達 淳	阿部 重夫	安部 恵広	安部 正人	木下 俊之	木村 泉	木村 宏一	木村 文彦
天野 要	天野 真家	天野 英晴	天野 浩文	木村 康則	清木 康	葛岡 英明	國枝 義敏
雨宮 真人	荒川 則泰	荒木啓二郎	荒屋 真二	國藤 進	久野 靖	久野 義徳	久保 秀士
有川 節夫	有木 康雄	有澤 博	有田五次郎	熊沢 逸夫	倉田 政彦	栗原 定見	黒川 利明
有馬 淳	有山 正孝	安西祐一郎	安藤 繁	黒沢 隆	黒沢 由明	郡司 隆男	小池 誠彦
飯田 仁	五十嵐正夫	五十嵐善英	池田 克夫	河野 真治	河野 毅	小暮 潔	小島 功
池田 尚志	池原 悟	池辺八洲彦	石井 裕	小谷 善行	小林孝次郎	小林 重信	小藤 俊幸
石井 光雄	石浦菜岐佐	石川 繁樹	石崎 俊	後藤 厚宏	後藤 滋樹	小山 照夫	斎藤 孝文
石田 亨	石田 晴久	石塚 満	石畑 清	斎藤 隆文	齊藤 忠夫	齊藤 康己	佐伯 元司
井田 哲雄	板橋 秀一	一岡 芳樹	井手口哲夫	坂井 公	坂井 修一	酒井 博敬	坂上 勝彦
伊藤 深	伊藤 秀一	伊藤 英則	稲垣 耕作	榎 博史	阪田 史郎	桜井 貴文	佐々木建昭
井上 潮	井上 克郎	井上 謙蔵	井上 倫夫	佐藤 和洋	佐藤 理史	佐藤 繁	佐藤 誠
猪原 茂和	茨木 俊秀	今井 浩	今泉 貴史	佐藤 雅彦	佐藤 豊	真田 英彦	塩谷 勇
井宮 淳	岩田 彰	岩沼 宏治	岩根 雅彦	柴合 治	篠木 剛	芝野 耕司	柴山 悦哉
岩野 和生	岩間 一雄	岩元 堯二	上田 和紀	柴山 茂樹	島崎 眞昭	島津 明	嶋津 好生
上野 修一	上野 晴樹	上原 邦昭	浮田 輝彦	島田 俊夫	清水謙多郎	下島 健彦	尺長 健
牛島 和夫	宇田川佳久	打浪 清一	宇都宮公訓	周 能法	首藤 公昭	白井 克彦	白井 良明
宇津宮孝一	宇野 栄	馬野 元秀	梅山 伸二	白石 博	白鳥 則郎	新城 靖	新藤 久和
浦野 義頼	大岩 元	大久保英嗣	大駒 誠一	末吉 敏則	菅野 政孝	菅原 研次	杉浦 洋
大島 正毅	大須賀節雄	太田 理	大田 友一	杉江 衛	杉藤 芳雄	杉原 厚吉	杉村 領一
太田 正孝	大槻 繁	大槻 説乎	大野 侑郎	杉本 重雄	杉山 健司	鈴木 健司	鈴木 千里
大野 豊	大野 義夫	大場 充	大蒔 和仁	鈴木 則久	鈴木 均	鈴木 正人	鈴木 正幸
大宅伊久雄	岡崎 彰夫	岡田 康治	岡田 博美	砂原 秀樹	住田 一男	関 浩之	関口 智嗣
岡田 義邦	小川 克彦	小川 貴英	小川 英光	曾和 将容	高木 利久	高橋 修	高橋 義造
小川 隆一	奥田 亮輔	奥乃 博	奥村 学	高橋 隆一	高松 忍	高村 真司	高山 信毅
小倉 武	小澤 正典	落水浩一郎	小野 論	滝 和男	滝澤 誠	武市 正人	竹内 郁雄
小野 令美	小野里好邦	小柳津育郎	海尻 賢二	竹下 亨	竹林 洋一	田胡 和哉	田島 讓二
開原 成允	嘉数 侑昇	柿本 正憲	角田 博保	多田 好克	田中 正次	田中 二郎	田中 英彦
角田 良明	寛 捷彦	樫尾 次郎	梶原 信樹	田中 穂積	田中 康仁	田中 讓	棚橋 純一
勝野 裕文	勝山光太郎	金澤 正憲	金地 克之	谷口倫一郎	田畑 孝一	田町 常夫	田村 進一
金谷 健一	金崎 克己	廉田 浩	金田 康正	田村 直良	田村 秀行	近山 隆	千葉 成美
金田悠紀夫	上林 憲行	上村 務	唐木幸比古	中所 武司	立木 秀樹	塚本 享治	津田 孝夫
川合 慧	河合 利幸	川合 英俊	川口喜三男	鶴田 節夫	程 京徳	手塚 正義	寺井 正幸

寺田 松昭, 寺中 勝美, 寺野 隆雄, 土井 聰之	遠山 元道	穂鷹 良介, 堀越 彌, 本位田真一, 本田 邦夫	内頭文
土肥 俊, 土居 範久, 当麻 喜弘, 遠山 五郎	德山 徳山	前川 楨夫, 前田 隆, 牧野 寛, 牧之内 繁	増田 功, 益田 隆司, 増永 良文, 増山 繁
富樫 敦, 戸川 隼人, 徳永 健伸, 富田 昌宏	富田 文明, 富田 順一	松尾 和洋, 松岡 聡, 松崎 功保, 松下 温	富永 昌治, 戸村 哲, 外山 芳人, 豊田 順一
富永 昌治, 戸村 哲, 内藤 昭三, 苗村 憲司	中川路哲男, 中川 聖一	松田 晃一, 松田 孝子, 松本 隆, 松原 仁	鳥居 俊一, 鳥谷 浩志, 中川 聖一, 中川 聖一
中尾 康二, 長尾 真, 中荃洋一郎, 長島 重夫	永瀬 宏	松本 尚, 松本 裕治, 松本 吉弘, 松山 公一	中川 裕志, 中川 正樹, 中荃洋一郎, 長島 重夫
中島 周, 中島 秀之, 中嶋 正之, 永瀬 宏	中前 栄八郎	松山 隆司, 松山 泰男, 真名 垣昌夫, 真野 芳久	中田 登志之, 永田 守男, 中谷 広正, 中前 栄八郎
中田 登志之, 永田 守男, 中谷 広正, 中前 栄八郎	中村 史朗	丸岡 章, 丸山 勉, 丸山 宏, 三浦 孝夫	中村 克彦, 中村 順一, 中村 宏明, 中村 史朗
永持 仁, 中森 眞理雄, 中山 仁, 名取 亮	新関 雅俊	水野 忠則, 溝口 徹夫, 溝口 博, 溝口 理一郎	生天目 章, 並木 美太郎, 成瀬 正, 新関 雅俊
新津 善弘, 新實 治男, 西尾 章治郎, 西川 博昭	西川 博昭	三井 斌友, 美濃 導彦, 宮内 ミナミ, 三宅 英太	西澤 貞次, 西関 隆夫, 西田 友是, 西田 豊明
西田 富士夫, 西野 哲朗, 西原 清一, 新田 義彦	野村 浩郷	三宅 康二, 都田 艶子, 宮崎 収兄, 宮崎 正俊	二宮 市三, 野口 健一郎, 野崎 昭弘, 野村 浩郷
萩野 達也, 萩谷 昌己, 箱崎 勝也, 橋田 浩一	服部 進実	宮沢 彰, 宮本 衛市, 村上 昌己, 向殿 政男	長谷川 武光, 長谷川 秀彦, 秦野 和郎, 服部 進実
服部 光宏, 服部 幸英, 浜田 長晴, 浜田 穂積	原田 賢一	宗森 純, 村尾 裕一, 村岡 洋一, 村上 和彰	林 弘, 速水 謙, 原 良憲, 原田 賢一
原田 耕一, 馬場 健, 馬場 登, 半田 劍一	一松 信	村木 一至, 室田 一雄, 毛利 友治, 元吉 文男	東野 輝夫, 疋田 輝雄, 日高 達, 一松 信
日比野 靖, 平川 秀樹, 平川 正人, 平木 敬	廣瀬 正	森 欣司, 森 健一, 森 正武, 森島 繁生	平田 圭二, 平田 富夫, 平原 正樹, 廣瀬 正
平田 圭二, 平田 富夫, 平原 正樹, 廣瀬 正	和彦	森田 憲一, 盛屋 邦彦, 守屋 慎次, 矢島 章夫	広瀬 道孝, 福井 一夫, 福井 義成, 福岡 和彦
福島 邦彦, 福田 見, 福永 泰, 藤代 一成	藤中 恵	矢島 敬二, 矢島 脩三, 安井 敏雄, 安浦 寛人	藤田 修, 藤田 克孝, 藤田 昌宏, 藤中 恵
藤野 喜一, 伏見 正則, 藤村 是明, 藤村 直美	直美	安田 孝美, 谷内 正彦, 矢野 米雄, 山上 俊彦	藤原 秀雄, 二木 厚吉, 二村 良彦, 舟久保 登衛
藤原 秀雄, 二木 厚吉, 二村 良彦, 舟久保 登衛	登衛	山口 和紀, 山口 高平, 山口 富士夫, 山口 喜教	船津 重宏, 古川 昭夫, 寶珍 輝尚, 穂坂 衛
船津 重宏, 古川 昭夫, 寶珍 輝尚, 穂坂 衛		山崎 進, 山崎 利治, 山下 眞一郎, 山下 正秀	
		山下 幸彦, 山下 義行, 山田 敬嗣, 山田 尚勇	
		山本 和彦, 山本 強, 山本 昌弘, 山本 喜一	
		湯浅 太一, 弓場 敏嗣, 横井 茂樹, 横尾 英俊	
		横川 三津夫, 横田 治夫, 横田 将生, 横矢 直和	
		横山 晶一, 吉浦 裕, 吉澤 正, 吉澤 康文	
		吉田 年雄, 吉田 紀彦, 吉田 裕之, 吉村 一馬	
		吉村 賢治, 吉村 晋, 米崎 直樹, 米澤 明憲	
		若菜 忠, 若林 一敏, 和田 幸一, 渡辺 勝正	
		渡部 卓雄, 渡辺 敏正, 渡辺 豊英, 渡辺 正信	
		渡辺 弥寿夫, 渡辺 喜道, F. M. キッシュ,	
		M. J. マクドナルド	



情報処理学会機関誌原稿執筆案内

* 1984年12月改訂
1986年12月改訂
1988年3月改訂
1988年12月改訂
1990年3月改訂
1991年3月改訂
1992年9月改訂

本学会は学会誌「情報処理」、論文誌「情報処理学会論文誌」の2種類の機関誌を発行している。学会誌「情報処理」は新しい技術動向をはじめとする種々の情報を掲載し、会員の知識の向上をはかるものであり、論文誌は会員の研究発表の場である。

本案内は学会機関誌の原稿執筆要領をまとめたものである。執筆上の手引きとして利用していただきたい。

1. 学会誌「情報処理」原稿執筆案内

1.1 学会誌の目的

学会誌「情報処理」は

- (1) 会員の知識の向上に資すること、
- (2) 本学会の活動を報告し、会員各位の学会活動への参画意識を高めていただくこと、
- (3) 会員の意見発表、討論、情報交換の場を提供すること、
- (4) 広く学会ニュース、各種情報の要約等を提供すること、

を目的としている。

とくに(1)の目的のために、つぎの方針で編集を行う。

- (a) 学会誌としてのレベル、および客観性を保ちながら、思い切り読みやすく分かりやすい記述を追求する。
- (b) 先進的分野、または特定分野の横断的な解説記事を企画し、対象となる読者層を明らかにして編集を行う。
- (c) 時宜にあった会員に興味のあるテーマをよりタイムリに掲載する。

1.2 記事種目

学会誌「情報処理」には前項の目的を達成するため、**第1表**に示す記事種目を設けている。

記事種目には、学会誌編集委員会が依頼する依頼記事と**1.4項**に掲げた投稿記事がある。

1.3 特集号

分野を選び、その分野での新しい技術の動向を集中的に解説、展望した特集記事を掲載する。

1.4 投稿、提案のお願い

1.2項の各種目に対する会員各位の積極的な投稿、または取りあげるべきテーマの提案をお願いする。特に(8)技術報告、(9)論説、(10)寄書、(11)会員の声、

(12)談話室、(13)海外だよりへの活発な投稿をお願いしたい。

1.5 投稿、提案の手続

(1) 投稿、提案者は原則として本学会員に限る。

(2) 投稿に使用する原稿用紙

① 原稿を手書きする場合は、本学会所定の原稿用紙を本学会事務局で購入すること。

② 原稿をワープロ等で作成する場合は、A4判の用紙を使用し、字詰は22字×44行にすること。

(3) 投稿、提案の種目(第1表参照)を明記すること。提案の場合は提案の趣旨を書き添えること。執筆候補者名を付記してもよい。

(4) 投稿する原稿の体裁と書き方は、**1.9項**を参考とした書き方にしていきたい。ただし梗概は不要である。

(5) 原稿用紙の購入先、原稿、提案の送付先、および問合せ先は次のとおりである。

160 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号

エステック情報ビル 27階

(社)情報処理学会 編集係 Tel. 03 (5322) 3535

FAX 03 (5322) 3534

1.6 投稿原稿、提案の取扱い

(1) 投稿原稿は学会誌編集委員会で査読し、著者に照会して修正をしていただく場合がある。

(2) 投稿、提案内容の採否については学会誌編集委員会が判断する。

1.7 依頼手続

(1) 依頼記事については、学会誌編集委員会が依頼原稿の種目ごとに標題などを決定し執筆を依頼する。依頼ページ数はそのとき指定する。

(2) 依頼した著者から承諾の返事があり、手書き原稿用紙が必要な場合には、これを送付する。

(3) 依頼趣旨にそって執筆をしていただくため、執筆構想（目次案）ができた段階で著者と協議することがある。

(4) 目次案、原稿の送付先、および問合せ先は 1.5 項(5)と同じである。

1.8 依頼原稿の取扱い

依頼原稿は学会誌編集委員会で閲読し、著者に照会して修正していただく場合がある。

1.9 原稿の体裁と書き方

原稿は、次の①～⑧をこの順に整える。各々別用紙に、必ず用紙を改めて書くこと。(①～⑧でオリジナル原稿一式とする)。

- ① 標 題：できるだけ簡潔に、かつ内容がよくわかるように決め、日英両文で書く。原稿の種類を標題の左肩に明記すること。
- ② 著者名・所属：氏名、所属を日英両文で書く。所属は、大学・学部・学科のように3項目で表記する。また、会員・非会員の別、著者連絡先（住所、電話番号、(内線) e-メール等。複数著者の場合は連絡担当者に*印を付すこと）を用紙の下部に明記すること。
- ③ 本 文：不必要に長い記述を避け、要点を有効に伝えるように書くことが望ましい。結果を示す数式には文章による解釈を付記した方が読者には理解しやすい。なお、大見出しは2行どりをする。
- ④ 謝 辞：謝辞もできるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝辞は本文中または脚注で記載した方がよい。
- ⑤ 参考文献：内容に直接関係のある重要な文献には必ず言及すること。これら文献に関連のある本文中の箇所には、右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する (1.10 項参照)。
- ⑥ 付 録：長い数式の誘導の過程や、実験装置、計算機についての説明などの詳細が必要な場合、これを本文中に挿入すると論旨が不明瞭になるので、付録にする方がよい。
- ⑦ 図 (1.10 項参照) ⑧ 表 (1.10 項参照)

1.10 原稿執筆上の一般的な注意事項

(1) 専門用語については、簡単な用語説明を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

(2) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順にする。次の例を参照にされたい。

4) 山田太郎：偏微分方程式の数値解法、情報処理、Vol. 1, No. 1, pp. 6-10 (1960)。

5) Feldman, J. and Gries, D.: *Translator Writing System, Comm. ACM*, Vol. 11, No. 2, pp. 77-113 (1968)。

7) 大山一夫：電子計算機、p. 300, 情報出版、東京 (1991)。

8) Wilkes, M. V.: *Time Sharing Computer Systems*, p. 200, McDonald, New York (1990)。

(3) 図 (モノクロ写真およびカラー写真を含む) および表には、図-1 および表-1 のような通し番号と名称を和文または英文でつける。

図は、刷上り寸法の2～3倍大にきれいに書き、文字、記号などは明瞭に記入する。図は本学会でトレースするので、鉛筆書きでもよいが、トレースしにくい図は避けていただきたい。

図、表のでき上り寸法と行数の換算は次のとおりである。

寸 法 (mm)	換算行数	手書き原稿相当枚数
A. 50×34	6 行	0.5 枚
B. 67×50	13 行	1 枚
C. 100×67	26 行	2 枚
D. 134×100	39 行	3.5 枚

(4) 数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などはとくに明瞭に記載する。大文字・小文字、上つき・下つきの別、×(かける)とX(エックス)の別など。

(5) 句読点は“.” および“,” を用い、それぞれ1画(1字分)を用いる。

(6) 数式は印刷に便利よう注意する。文中に式を挿入する場合には a/b , $\exp(t/r)$ のような記法を用いる。

独立した数式は1行につき原稿用紙の2行または3行のスペースを取って書く。数式も文の一種であるから、原則として末尾に“,” または“.” を付す。ただし、プログラム言語の形式を利用する場合には、この限りではない。

(7) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する。

(8) 原稿中にとから文章、文字などを挿入する時は、挿入する文章や文字を欄外に明瞭にし、かつ挿入する箇所をVまたは^ (朱書) で示す。

(9) 脚注は、*, **, *** などの記号で示し、本文中そのすぐ下に横線ではさんで記入し、脚注と朱書する。

(10) 文中の記号で太字を使用の場合は、その記号の下に~を朱書し、イタリック(斜体)使用の場合はその文字の下に朱書で一と指定する。

(11) 用語は原則として「情報処理用語標準対訳」に

第1表 学会誌「情報処理」の記事種目

記事種目	内 容	依頼記事	投稿記事	刷上り 標準 ページ数	総字数	手書き 原稿枚数	標 題	著者名 所
(1) 解 説	新しい技術の動向などについて一般の会員を対象として平易に解説したもの	○		8	15,100	53	和文および英文	和文および英文
(2) 講 座	定説となっている基礎的な問題について平易に系統的に解説したもの	○		10	19,100	67	"	"
(3) 展 望	新しい理論、技術などの展望を比較的専門の立場から論説したもの	○		8	15,100	53	"	"
(4) 報 告	総合的なプロジェクトや国内外の会議などの成果報告	○		6	11,400	40	"	"
(5) 講 演	本学会が主催した講演の要旨	○		6	11,400	40	"	"
(6) 座 談 会	学会誌編集委員会が企画した座談会の要約	○		8	15,100	53	"	"
(7) 巻 頭 言	本学会の会長や理事などの抱負、所感	○		1	1,900	6	和 文	和 文
(8) 技 術 報 告	会員が広く関心をもつ研究、開発などの報告	○	○	4	7,600	26	和文および英文	和文および英文
(9) 論 説	社会的な視野からみた情報処理に関する論説や主張		○	4	7,600	26	"	"
(10) 寄 書	情報処理に関する理論、技術、動向など会員が関心を持つ事項の論説や主張		○	4	7,600	26	"	"
(11) 会 員 の 声	本学会の活動および学会誌に対する会員からの意見		○	0.5	900	3	和文または英文	和文または英文
(12) 談 話 室	経験談、提案、批判、誌上討論など		○	2~4	3,800~ 7,600	13~26	"	"
(13) 海 外 だ よ り	在外者からの外国での研究状況などの報告		○	2	3,800	13	"	"
(14) 研 究 室 紹 介	大学、研究所などの研究活動の紹介		○	3	5,700	20	"	"
(15) 書 評	文献ニュース小委員会が選定した図書の紹介および批評	○		1	1,900	6	"	"
(16) 文 献 翻 訳	" 海外文献の翻訳	○		8	15,100	53	"	"
(17) 文 献 紹 介	" 海外文献の概要紹介	○		1	1,900	6	"	"
(18) ニ ュ ー ス	" ニュース	○		0.5	900	3	"	"
(19) 論文誌 アブストラクト	論文誌に掲載された論文、ショートノートの和文または英文アブストラクト	○		0.3	900	2	和文および英文	和文および英文
(20) 研 究 会 報 告	各研究会、研究委員会の報告	○		3	5,700	20	和文または英文	和文または英文
(21) 情 報 規 格 調 査 会 報 告	情報規格調査会の活動報告	○		8	15,100	53	和 文	和 文
(22) 情 報 技 術 標 準 化 の ページ	情報技術に関する国際標準化の進展状況報告			1	1,900	6	英 文	和文および英文
(23) 国 際 活 動 の ページ	国際活動に関する国内外の活動状況の報告	○		1	1,900	6	和文または英文	和文または英文
(24) 会 議 案 内	関連国内外の会議の予告、カレンダー、論文募集など			0.5	900	3	"	"
(25) 本 会 記 事	理事会、各種委員会の報告、大会、総会、支部だよりなど			1	1,900	6	和 文	和 文
(26) 会 告	学会からのお知らせ、行事案内						"	"
(27) 事 務 局 だ よ り				0.5	900	3	"	"

* タイトル、図表などすべてを含めた原稿用紙の枚数
ワープロ原稿用紙 (22 字×44 行=968 字)
手書き原稿用紙 (22 字×13 行=286 字)

よる。

1.11 その他

(1) コピー：郵送中の紛失事故対策や照会の便宜などのため、原稿のコピーは必ず手元にとっておいていただきたい。

(2) 正誤：著者から正誤の申し出があった場合、正

誤表を最近号に掲載する。

(3) 著者紹介：必要な場合には原稿用紙1枚以内の著者紹介と写真一葉を依頼する。

(4) 別刷：著者は原稿校正時に別刷を注文することができる。その料金は別途定める。

(5) 原稿料：依頼原稿の原稿料は別途定める。

2. 「情報処理学会論文誌」原稿執筆案内

2.1 論文誌発行の目的

論文誌は会員の研究成果の発表およびこれに関連する討論の場を提供するために刊行される。

2.2 論文誌の記事ならびに用語

- (1) 論文誌の記事は会員が自発的に執筆し、投稿するもので、原著論文、ショートノートおよび誌上討論の3種類がある。その概要を第1表に示す。
- (2) 投稿原稿は日本語あるいは英語で記述するものとする。

2.3 投稿手続

- (1) 投稿者は原則として本会員に限る。寄稿者が連名の場合は、少なくとも1名は本会員であること。
- (2) 投稿原稿に関しては「2.6 論文投稿形式」に従うものとする。ただし、誌上討論に関しては形式は自由とする。
- (3) 投稿原稿が所定の体裁に整っておれば、受付日と受付番号を記載した原稿受領書を学会より投稿者へ発行する。投稿原稿の問合せ等は、以後、この受付番号でおこなうこと。
- (4) 原稿の送付先および問合せ先は下記の情報処理学会事務局まで。

160 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号

エステック情報ビル 27階

(社)情報処理学会 論文誌係 Tel. 03 (5322) 3535

FAX 03 (5322) 3534

2.4 投稿原稿の取り扱い

- (1) 論文誌への掲載は論文誌編集委員会で決定され、その採否が投稿者に通知される。
- (2) 掲載記事の内容についての最終責任は著者が負うものとする。
- (3) 本学会に採録される前に、下記の公開刊行物に掲載された論文は、既発表とみなし、原則として採録不可能なものとする。
 - (a) 学会誌、(b) 商業誌、(c) 各種機関誌、(d) 大学の紀要、(e) 査読をおこなう会議録
 ただし、本論文誌に掲載されたショートノートをもとに発展、充実させたものは既発表とはみなさない。

- (4) 原著論文とショートノートに関しては、査読委員の審査結果に基づき、論文誌編集委員会で次のいずれかに決定される。

(a) 採録とする。

(b) 著者に照会し、回答または修正などを求めたうえで、改めて審査をおこない採否を決定する。

(c) 不採録とする。

- (5) 採録になった原著論文、ショートノートは、委員会翌月の学会誌上に発表する。また、論文誌に掲載する際には、末尾に、原稿受付日及び採録決定日を付記する。

- (6) 照会は、論旨が不明な点の問合せ、部分的な誤りの訂正、難解もしくは冗長な記述の書き直しを求めることを主眼としておこなわれる。照会は原則として1回以内とする。照会への回答期限は3カ月以内で、これを経過した場合は、取り下げたものとみなされる。

- (7) 不採録に決定した原稿は、不採録理由を付して著者に返却する。

- (8) 投稿論文は次の場合には不採録となる。

(a) 既発表または周知のものから容易に類推される内容である。

(b) 内容が不十分で、読者の参考にならないと考えられる。

(c) 本質的な誤り、または、客観的に認知できない記述がある。

(d) 文章表現や構成において問題があり、軽微の修正で改善の見込みがない。

(e) 本学会と関連性が薄い分野の論文である。

2.5 掲載決定通知、印刷等

- (1) 採録の決定した論文などに関しては、掲載号が決まった時点で、掲載決定通知を送付する。

- (2) 誤植防止のために、著者に校正刷りを送る。校正の際に、原稿及び図面の変更は認めない。

- (3) 著者から正誤の申し出があった場合、正誤表を最近号に掲載する。事情により有料となることがある。

第1表 論文誌の投稿記事種目

種目	内容	刷上り標準ページ数	和文記事原稿枚数		英文記事数
			ワープロ	手書き	
(1) 論文	学術、技術上の研究・開発成果の記述であり、独創性、新規性、有用性などの点から会員にとって価値のあるもの。	8	24	48	6,000
(2) ショートノート	新しい研究・開発成果の速報、または小論文。	3	9	18	2,500
(3) 誌上討論	掲載論文、ショートノートに対する質問、回答、その他の意見、提案など。	2	6	12	1,500

* 原稿枚数、語数はタイトルや図表などすべてを含めた数値
ワープロ原稿用紙 (24字×26行=624字)

手書き原稿用紙 (24字×13行=312字)
英文記事は刷上り1ページあたり約750語

論文誌別刷価格表(単位:円)

部数	ページ数	1	2	3	4	5	6	7	8
100		7,000	14,000	21,000	28,000	35,000	42,000	63,000	84,000
200		8,000	15,000	22,000	29,000	36,500	43,500	64,500	85,500
300		9,000	16,000	23,000	30,000	38,000	45,000	66,500	87,500
400		10,000	17,000	24,000	31,000	39,500	46,500	68,500	89,500
500		11,000	18,000	25,000	32,000	41,000	48,000	70,500	91,500

なお、8ページを超えるときは100部の場合で1ページにつき21,000円加算する。カラー写真については、1カラー頁当たり、4通常頁分と換算する。

(4) 掲載された原著論文、ショートノートについては、100部以上の別刷を買いとっていただく。価格は別表による。著者校正のさい、別刷申込書を同封するので、必要事項記入のうえ、校正ゲラとともに返送のこと。

2.6 論文投稿形式

2.6.1 投稿に使用する原稿用紙

① 原稿をワープロ等で作成する場合は、A4判またはレターサイズ(8.5"×11")の用紙を使用し、片面打ちとする。字詰は以下にすること。

和文: 24字×26行

英文: ダブルスペースで、1ページあたり約250語
大見出しは2行どりとする。

② 和文原稿を手書きする場合は、本会所定の原稿用紙を本会事務局で購入すること。

なお、原稿枚数、語数と刷上りページ数の関係については第1表を参照のこと。

2.6.2 投稿原稿の構成

原稿は、次の①～⑩をこの順に整える。各々別用紙に、必ず用紙を改めて書くこと。(①～⑩でオリジナル原稿一式とする。)

① 標 題: できるだけ簡潔に、かつ内容がよくわかるように決め、日英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和(日)文はなくても良い。原稿の種別を標題の左肩に明記すること。

② 著者名・所属: 氏名、所属を日英両文で書く。ただし、英文論文の場合は、和(日)文はなくても良い。共著の場合、著者と所属機関の対応を明示すること。また、会員・非会員の別(会員の場合は会員番号も)、著者連絡先(住所、電話番号(内線)、e-メール等。複数著者の場合は連絡担当者に*印を付すこと)を用紙の下部に明記すること。

③ 和文アブストラクト: 600字(ショートノートは300字)以内。ただし、英文論文の場合は不要。

④ 英文アブストラクト: 200語(ショートノートは100語)以内。

⑤ 本 文

⑥ 謝 辞: 必要ならば付けても良いが、できるだけ簡単なものとする。特定事項についての援助への謝

辞は本文中または脚注で記載した方がよい。

⑦ 参考文献: 研究内容に直接関係のある重要な文献には必ず言及すること。これら文献に関連のある本文中の箇所には、右肩に参考文献番号を書き、末尾にその文献をまとめて記述する(2.6.4参照)。

⑧ 付 録: 長い数式の誘導の過程や、実験装置、計算機についての説明などの詳細が必要な場合、これを本文中に挿入すると論旨が不明瞭になるので、付録にする方がよい。

⑨ 図(2.6.4参照) ⑩ 表(2.6.4参照)

⑪ キーワード・チェックリスト: 情報処理学会所定のもの。

2.6.3 投稿原稿の提出形式

原稿を投稿する際は、次の(A)～(C)を必要とする。不足がある場合は受け付けない。

(A) オリジナル原稿一式(①～⑩)

(B) (A)のコピー3部(但し査読用として、②著者名・所属、⑥謝辞および⑩キーワード・チェックリストを除いたもの)。

(C) ①標題、②著者名・所属、③和文アブストラクト、④英文アブストラクト、⑥謝辞、⑩キーワード・チェックリストそれぞれのコピー1部。

2.6.4 原稿執筆上の一般的な注意事項

(1) 専門用語については、簡単な用語説明を添付することが望ましい。また本文中に使用する記号には必ず説明をつける。

(2) 参考文献は原則として、雑誌の場合には、著者、標題、雑誌名、巻、号、ページ、発行年を、単行本の場合には、著者、書名、ページ数、発行所、発行年を、この順にする。次の例を参照にされたい。

4) 山田太郎: 偏微分方程式の数値解法, 情報処理, Vol. 1, No. 1, pp. 6~10 (1960).

5) Feldman, J. and Gries, D.: *Translator Writing System*, *Comm. ACM*, Vol. 11, No. 2, pp. 77-113 (1968).

7) 大山一夫: 電子計算機, p. 300, 情報出版, 東京(1991).

8) Wilkes, M. V.: *Time Sharing Computer Systems*, p. 200, McDonald, New York (1990).

(3) 図（モノクロ写真およびカラー写真を含む）および表には、図1および表1のような通し番号と名称を和文と英文でつける。ただし英文論文の場合は和文はなくても良い。英文はその図や表の内容が本文を参照しなくても理解できるよう配慮する。

図・表は著者の作成したものを、そのまま印刷するので、下記要領により、黒インキでトレースするか、あるいは同等の画質があるものを提出すること。①刷り寸法の2倍大にきれいに書き、文字、記号などは明瞭に記入する。②図・表を入れる場所は、原稿用紙の欄外に明記すること。③表はできる限り簡潔に作成し、長い表は、途中を省略するか、あるいは、直接製版できる原稿にする。④図・表原本には裏面に鉛筆で著者名と図番を記入すること。

図・表のできり寸法と行数または枚数の換算は次のとおりである。

(4) 数字、ローマ字、ギリシャ文字、記号などは特に明瞭に記載する。大文字・小文字、上つき・下つ

寸法 (mm)	ワープロ行数 (24字×26行)	手書き原稿相当枚数
A. 50×34	6行	0.5枚
B. 67×50	13行	1枚
C. 100×67	26行	2枚
D. 134×100	39行	3.5枚

きの別、×（かける）とX（エックス）の別など。

(5) 句読点は“.”および“,”を用い、それぞれ1画（1字分）を用いる。

(6) 数式は印刷に便利よう注意する。文中に式を挿入する場合には a/b , $\exp(t/r)$ のような記法を用いる。

独立した数式は1行につき原稿用紙の2行または3行のスペースを取って書く。数式も文の一種であるから、原則として末尾に“,”または“.”を付す。ただし、プログラム言語の形式を利用する場合には、この限りではない。

(7) 印刷すべき本文以外の指定や注意書きなどはすべて朱書する。

(8) 原稿中にあとから文章、文字などを挿入する時は、挿入する文章や文字を欄外に明瞭にし、かつ挿入する箇所を∨または∧（朱書）で示す。

(9) 脚注は、*, **, ***などの記号で示し、本文中のすぐ下に横線ではさんで記入し、脚注と朱書する。

(10) 文中の記号で太字を使用の場合は、その記号の下に～を朱書し、イタリック体（斜体）使用の場合はその文字の下に朱書で一と指定する。

3. 機関誌に掲載された論文等の著作権

3.1 著作権の帰属

(1) 機関誌に掲載された論文等（以下論文等という）の著作権は原則として本学会に帰属する。

(2) 特別な事情により前項の原則が適用できない場合は著者と本学会との間で協議のうえ措置する。なお特別な事情としては次のような例を想定する。

- 依頼論文等であって、その内容が著者個人でなく著者の所属する法人等に係るもので、著作権の本学会への移転帰属に関し当該法人等の了解が得られない場合。
- 特別講演記事などで著者の了解が得られない場合。

3.2 著作権の本学会への移転帰属による運用効果および運用上の措置等

(1) 論文等の著作権は本学会に帰属するが、著者人格権は著者に帰属する。ただし、著者が著者自身の論文等を複製・翻訳等の形で利用することに対し、本学会はこれに異議申立て、もしくは妨げることを行わない。この場合著者は本学会に申し出を行い、また利用された複製物あるいは著作物中に出典

を明記すること。

(2) 本学会は論文等の複製をおこなうことができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。

(3) 第三者から論文等の複製あるいは翻訳等の許諾要請があった場合、本学会は理事会において審議し、適当と認めたものについて要望に応ずることができる。但しこの場合関係する著者にその旨了解を得る。

(4) 前項の措置によって、第三者から本学会に対価の支払があった場合には関係する著者に報告のうえ、本学会会計に繰り入れ学会活動に有効に活用する。

3.3 著作権侵害等に関する注意事項

(1) 執筆に当っては他人の著作権の侵害、名誉毀損、その他の問題を生じないように十分に配慮すること。

(2) 著者は公表された著作物を引用することができる。引用した場合はその出典を明示すること。

(3) 万一、執筆内容が第三者の著作権を侵害するなどの指摘がなされ、第三者に損害を与えた場合著者がその責を負う。

Information for Authors Who Submit Papers to the Revised "Transactions"

The goal of the monthly "Transactions of Information Processing Society of Japan" is to publish a wide range of scientific and technical papers, not available elsewhere, that deal with all aspects of information processing, computer and information science/engineering, and related areas. Only papers not published previously will be accepted.

"Transactions" provides three kinds of material: full papers, short notes, and letters to the editor. Papers should describe original research, theoretical or practical. Short notes may be addenda to previous papers, descriptions of ongoing research to be published later in more comprehensive form, or simply short papers. Letters to the editor are for brief questions and answers on published papers.

Submission of Manuscripts:

Submit four copies of your manuscript, each complete with illustrations and abstract. Full papers should not exceed eight printed pages, or about 6000 words. Short notes should not exceed 2500 words. Letters to the editor should not exceed 1500 words.

Address manuscripts to:

Editor of "Transactions"
Information Processing Society of Japan
STEC Joho Bldg. 27F
1-24-1 Nishi-shinjuku, Shinjuku-ku
Tokyo 160, Japan

Your paper should be accompanied by:

1. Illustrations, preferably originals; otherwise, use clear, good quality copies, and be prepared to send originals upon acceptance of your paper.
2. A technical biography of 150 words or less and a photograph of each author; otherwise, be prepared to send these upon acceptance of your paper. For biography style, see the latest issue of "Transactions."
3. The questionnaire included with this document (or a copy), filled out as completely as possible. The questionnaire is used to help select appropriate referees.
4. A separate, signed letter giving the address(es) of author(s) and indicating to whom correspondence and galley proofs are to be sent.

Manuscript Style:

Type using double spacing on one side of 21 × 30 cm (A4) or 8.5 × 11 in sheets. Typical style would be about 250 words a page.

Give the title of the paper and the name(s) and affiliation(s) of author(s) on a separate sheet. In co-authored papers, be sure to clearly indicate the correspondence of authors' names and affiliations.

Provide an informative abstract of 200 words or less

(100 words or less for short notes) at the head of the manuscript.

Place references in a separate section at the end of the paper, numbered serially and referred to within the paper by their numbers in square brackets. References must be complete and follow the style in these examples:

- (1) Yamada, T., Realization of a Processor with Virtual Tapes, Trans. IPS Japan 1, (January 1971), 1-8.
- (2) Randell, B., ed., The Origins of Digital Computers, 2nd ed., Springer-Verlag, Berlin, 1975.
- (3) Wang, W. I. and Mendez, E., Computers as Personalities, Appl. Phys. Lett. 58 (June 1991), 826-829.

Clearly indicate in the right margin of the manuscript where to insert illustrations and tables.

Illustrations and Tables:

Illustrations should be sharp, noise-free, and of good contrast.

Drawings should be in India ink on drafting cloth, paper, or board. Use 21 × 30 cm (A4) sheets, if possible; otherwise, use 8.5 × 11 in sheets.

Graphs should show only coordinate axes or, at the most, major grid lines.

Lettering should be large enough to be legible after reduction of up to 25%.

Photographs should be glossy prints, of good contrast and gradation and reasonable size.

Number and caption each original, including the author's name in soft pencil on the back.

Referee process:

Each submitted paper is subjected to a referee process. The final decision on publication rests with the Editor, and is based on referees' comments. The author(s) is completely responsible for the accuracy of the contents of the paper, however.

Notes:

The manuscripts will not be returned.

The copyright for all published papers belongs to the Information Processing Society of Japan.

The author or author's institute is required to purchase a minimum of 100 reprints. Prices are as follows:

Prices for reprints (unit: ¥1000)

Copies	Pages							
	1	2	3	4	5	6	7	8
100	7	14	21	28	35	42	63	84
200	8	15	22	29	36.5	43.5	64.5	85.5
300	9	16	23	30	38	45	66.5	87.5
400	10	17	24	31	39.5	46.5	68.5	89.5
500	11	18	25	32	41	48	70.5	91.5

キーワード（和文論文誌投稿用）

〔寄稿者用〕

（Ⅰ）あなたが寄稿する原稿の内容に最も関係の深い項目（1つ）に◎印，関係する項目（複数個も可）に○印を付けてください。

大項目	中項目	小項目 ()内は該当項目のないときに分野名を記入
00 情報科学一般	一般 社会 教育	哲学 歴史 伝記 () 規格 標準化 知的所有権 社会問題 () 情報科学・工学の教育 カリキュラム コンピュータリテラシ CAI 教育工学 ()
01 基礎理論及び基礎技術	情報数学 情報理論及び OR データ解析 数値計算 シミュレーション	形式論理 オートマトン理論 形式言語理論 計算可能性の理論 計算の複雑さ アルゴリズム論 グラフ理論 組合せ理論 ファジ理論 符号理論 整数論 () 情報理論 線形・非線形計画法 動的計画法 整数計画法 ゲーム理論 待ち行列理論 () 推定・検定 確率モデル 統計・確率計算 多変量解析 () 誤差解析 関数近似 補間 線形計算 非線形方程式 数値微積分 常微分方程式 偏微分方程式 積分方程式 極値問題 最適化 特殊関数 数式処理 乱数 () 有限要素法 境界要素法 差分法 モンテカルロ法 ()
02 人工知能及び認知科学	基礎理論 人工知能システム 自然言語処理 パターン認識 生体情報処理 感性情報処理	探索 定理自動証明 推論方式 知識表現 知識獲得 非単調論理 学習理論 コネクショニズム () エキスパートシステム ガイダンスシステム エキスパートシステム作成支援ツール ゲームプログラム 演繹データベース 知能ロボット () 機械翻訳 自然言語インタフェース 対話システム 形態素解析 構文解析 意味解析 文生成 談話理解 文法 辞書 () 音声認識 話者識別 画像理解 物体認識 文字認識 リモートセンシング 三面図処理 () 視覚 聴覚 神経モデル ニューラルネットワーク () 心理モデル 行動モデル 感情モデル ()
03 データ処理	音声処理 画像・図形処理 テキスト処理 マルチメディア処理	音声分析 音声合成 () 画質改善 帯域圧縮 符号化 曲面合成 トモグラフィ 3次元処理 グラフィックス アニメーション () ワードプロセッシング 日本語入出力 文書処理 卓上出版 フォントデザイン パターン照合アルゴリズム () ()
04 ソフトウェア	基礎理論 プログラム言語及び仕様記述言語 言語処理系 ツール オペレーティングシステム データベース・情報検索 プログラミング技術	プログラム理論 オペレーティングシステム理論 データベース理論 形式的意味論 算法論理 検証理論 カテゴリ理論 属性文法 計算パラダイム プログラム合成・変換 () 手続き型言語 論理型言語 関数型言語 オブジェクト指向言語 並列処理言語 システム記述言語 数式処理言語 シミュレーション言語 仕様記述言語 () 構文解析 コード生成 最適化 コンパイラ インタプリタ () エディタ デバッガ ベリファイヤ コンパイラジェネレータ ウィンドウシステム () 記憶管理 入出力管理 障害管理 通信管理 ファイル管理 ジョブ・タスク管理 自動運転管理 並列分散処理 例外処理 性能評価 () データモデル データ言語 データベース設計 質問処理 トランザクション処理 一貫性制約 ファイル構成 検索方式 分散データベース マルチメディアデータベース () データ構造 ガーベッジコレクション ハッシング ソーティング サーチング ベクトル化 ()

* 1988年7月改訂

大項目	中項目	小項目 ()内は該当項目のないときに分野名を記入
05 ソフトウェア工学	開発技術 テスト・保守 ソフトウェアプロセス 開発環境 ヒューマンファクタ	設計理論 要求分析法 仕様記述法 プログラミング方法論 プロトタイピング 部品化・再利用技術 プログラム自動構成 () プログラムのテスト・デバッグ プログラム検証 性能評価 プログラム解析 保守運用管理 () プロセスモデル プロセスプログラミング 工程管理 () 構成理論 分散開発環境 文書化支援 () マン・マシンインタフェース 要員教育 プロジェクト管理 プログラミング行動 ()
06 ハードウェア	基礎理論 論理回路 デバイス アーキテクチャ 周辺・端末 設計技術及び設計自動化 開発環境 テスト・検証	組合せ回路理論 順序回路理論 論理設計理論 レイアウトアルゴリズム ハードウェアアルゴリズム () 記憶回路 演算回路 制御回路 誤り検出・訂正回路 テスト容易化回路 () 論理デバイス 記憶デバイス 入出力デバイス ASIC PLD () 汎用計算機 専用計算機 スーパーコンピュータ ワークステーション 高級言語マシン 非ノイマンアーキテクチャ 並列アーキテクチャ マイクロプログラム フォールトトレランス () 外部記憶 ディスプレイ装置 ハードコピー装置 文字読取装置 図形入出力装置 音声入出力装置 () 方式設計 機能設計 論理設計 レイアウト設計 テスト生成 設計記述言語 シリコンコンパイラ () 統合化ツール 設計環境 設計データベース () LSI テスト ハードウェア設計検証 性能評価 ()
07 ネットワーク	通信技術 ネットワーク管理 コンピュータネットワーク	データ交換方式 通信方式 画像通信 トラヒック理論 ネットワークアーキテクチャ プロトコル プロトコル検証 () 名前管理 経路管理 障害管理 () WAN LAN 電子会議 電子掲示板 電子メール 分散処理 ()
08 システム	対話型システム オンラインシステム 制御システム システム評価	構成理論 方法論 CAE CAD CAM CIM CAI 管制システム 訓練システム 意志決定システム オフィスシステム () 予約システム バンキングシステム () プロセス制御 数値制御 通信制御 産業用ロボット FA () 評価技法 評価指標 評価モデル ()
09 信頼性と安全性	信頼性 機密保護	信頼性理論 保全性理論 信頼性評価 故障解析 () 暗号理論 認証 鍵管理 鍵配送 セキュリティ ()
10 応用	企業等への応用 工学等への応用 芸術等への応用 その他への応用	オフィス 行政 経営 金融 情報サービス 生産管理 計算機センタ運営 教育 () 航空・宇宙 機械 土木 建築 都市 電気・電子 計測 生物 物理 化学 原子力 輸送・交通 医学・歯学 () 音楽 絵画 商業デザイン () 自然科学 () 社会科学 () 人文科学 () 障害者補助 ()
11 その他 ()		

(II) キーワード表にとらわれず、寄稿内容を表すキーワードを書いてください。

- (1) (2) (3)
(4) (5)

情報処理学会 原稿チェックリスト (太枠内著者記入)

受付番号		希望掲載欄		査読者			
和文 標題						原稿	枚
英文 標題						図	枚
						表	枚
						アブストラクト	枚
項目	検討内容 (適切であると認められれば○印, そうでないとき×印. 投稿者は著者) の欄に自分の判定結果を記入すること	著者	査読結果				
			第1回	第2回	第3回		
標題 抄録等	掲載欄は著者の指定通りでよいか						
	第3者(著者以外の人)が目を通しているか					(事務局)	
	和文標題は内容を適切に表わしているか						
	英文標題は内容を適切に表現し, 英語としても適切か						
アブストラクトは主旨を適切に表現し, 英文も適切か							
本文	在来研究との関連, 研究の動機, ねらい等が明確に説明されているか						
	既発表の論文等との間に重複はないか						
	章, 節のたて方, 全体の構成等は適切か						
	説明に冗長な点, 逆に簡単すぎる点はないか						
	説明に飛躍した点はないか仮定等の説明は十分か						
	記号・略号等は周知のものか用語は適切か						
	図・表の説明は適当か(本文中および各図のキャプション)						
	科学技術論文として不適当な表現や, 判りにくい表現はないか						
図表	結論が明確に記されており, 範囲, 限界, 問題点などの指摘が適切で, 内容にそったものであるか						
	図表自体は十分に明解であるか, 誤りはないか						
	十分に鮮明か	(事務局)					
文献	大きさ, 縮尺の指定は適切か	(事務局)					
	適切な文献が引用されており, その数も適切か						
総合 評価	創意の程度(最高を5とした5段階評価)						
	資料価値, 読者にとって有益な情報の量(最高を5とした5段階評価)						
	興味をもつ読者の多少(非常に多い場合5, ほとんどないとき1)						
	原稿の取り扱い(このまま掲載=3 照会后判定=2 不採録=1)						
査読 歴	回数	第1回	第2回	第3回			
	依頼	年月日	原稿 枚	年月日	原稿 枚	年月日	原稿 枚
	期日	年月日	図 枚	年月日	図 枚	年月日	図 枚
	返着	年月日	表 枚	年月日	表 枚	年月日	表 枚
連絡 事項	第1回	第2回	第3回				

Questionnaire

The author is requested to mark

(1) In Table 1, those keywords that best characterize the field to which the paper belongs. Mark a double circle on keywords that best describe the contents of your paper, and mark a single circle on keywords that relate to the contents of your paper. Also mark a triangle on keywords that you think may be related to the contents of your paper. Please use the parenthesized blanks to fill in new keywords if it is difficult to make a reasonable choice from the table.

(2) In Table 2, those items that best characterize the methods used in showing the validity of results of the paper. Use as many single circles.

Table 1: KEYWORDS

Category	Subcategory	Item Enter keywords in () when not appropriate.
00 Information Science	General Society Education	Philosophy, History, Biography, () Standards, Standardization, Intellectual properties, Social Problems, () Information science/engineering education, Curriculum, Computer literacy, CAI, Educational engineering, ()
01 Fundamental Theory and Technology	Information Mathematics	Formal logic, Automata, Formal languages, Theory of computation, Complexity theory, Algorithms, Graph theory, Combinatorics, Fuzzy theory, Coding theory, Number theory, ()
	Information Theory and OR	Information theory, Linear/Nonlinear programming, Dynamic programming, Integer programming, Game theory, Queueing theory, ()
	Data Analysis	Estimation and testing, Probabilistic model, Computation of statistics/probability, Multivariate analysis, ()
	Numerical Analysis	Error analysis, Function evaluation, Interpolation, Linear algebra, Nonlinear equations, Numerical differentiation / integration, Differential equations, Partial differential equations, Integral equations, Variational method, Optimization, Special function, Symbolic processing, Random numbers, ()
	Simulation	Finite element method, Boundary element method, Difference method, Monte-Carlo method, ()
02 Artificial Intelligence and Cognitive Science	Fundamental Theory	Search, Automatic theorem proving, Inference methods, Knowledge representation, Knowledge acquisition, Non-monotonic logic, Learning theory, Connectionism, ()
	Artificial Intelligence System	Expert system, Guidance system, Expert system development tools, Game program, Deductive database, Intelligent robot, ()
	Natural Language Processing	Machine translation, Natural language interface, Interactive system, Morphological analysis, syntax analysis, semantic analysis, sentence generation, discourse understanding, grammar, dictionary, ()
	Pattern Recognition	Speech recognition, Speaker recognition, Image understanding, Object recognition, Character recognition, Remote sensing, Conversion of a mechanical drawing to its solid model, ()
	Biological Information Processing	Vision, Auditory sense, Neural model, Neural network, ()
	Psychology	Psychological model, Behavior model, Mental model, ()
03 Data Processing	Speech Processing	Speech analysis, Speech synthesis, ()
	Image Synthesis/Processing	Image improvement, Bandwidth compression, Encoding, Surface synthesis, Tomography, 3D processing, Graphics, Animation, ()
	Text Processing	Word Processing, Japanese language input/output, Document processing, Desk top publishing, Font design, Pattern matching algorithm, ()
	Multi-media Processing	()
04 Software	Fundamental Theory	Theory of programs, Operating system theory, Database theory, Formal semantics, Programming methodology, Program verification, Category theory, Attribute grammar, Computational paradigm, Program synthesis/transformation, ()
	Programming Languages and Specification Languages	Procedural languages, Logic programming languages, Functional languages, Object-oriented languages, Concurrent languages, System description languages, Formula manipulation languages, Simulation languages, Specification languages, ()
	Language Processor Tool	Syntax analysis, Code Generation, Optimization, Compiler, Interpreter, ()
	Operating System	Editor, Debugger, Verifier, Compiler generator, Window system, ()
	Database/Information Retrieval	Memory management, Input/Output management, Failure/Recovery management, Communication management File management, Job/Task management, Automatic/Unattended operation, Parallel distributed processing, Exception processing, Performance evaluation, ()
	Programming Technique	Data model, data languages, Database design, Query processing, Transaction processing, Integrity constraint, File organization, Access method, Distributed database, Multimedia database, ()
		Data structures, Garbage collection, Hashing, Sorting, Searching, Vectorization, ()

Category	Subcategory	Item Enter keywords in () when not appropriate.
05 Software Engineering	Development Technique	Design theory, Requirement analysis, Specification methodology, Programming methodology, Prototyping, Software parts/Reuse technique, Automatic program generation, ()
	Test and Maintenance	Program testing and debugging, Program verification, Performance evaluation, Program analysis, Maintenance/Production management, ()
	Software Process	Process model, Process programming, Process management, ()
	Development Environment Human Factors	Architecture, Distributed development environment, Text processing aids, () Man machine interface, Worker education, Project management, Programming behavior, ()
06 Hardware	Fundamental Theory	Combinatorial circuit theory, Sequential circuit theory, Logic design theory, Layout algorithm, Hardware algorithm, ()
	Logic Circuit	Memory circuit, Arithmetic circuit, Control circuit, Error detection/correction, Testability circuit, ()
	Device	Logic device, Memory device, Input/Output device, ASIC, PLD, ()
	Architecture	General purpose computer, Special purpose computer, Super computer, Workstation, High level language machine, Non von neumann architecture, Parallel architecture, Micro-program, Fault tolerance, ()
	Peripheral and Terminal	External memory, Display, Hardcopy device, OCR, Graphic input/output device, Speech input/Out device, ()
	Design Technology and Design Automation Development Environment Test/Verification	Architecture design, Functional design, Logic design, Layout design, Test generation, Design description language, Silicon compiler, () Integration tools, Design environment, Design database, () LSI test, Hardware design verification, Performance evaluation, ()
07 Network	Communication Technology	Data switching, Communication, Image communication, Traffic theory, Network architecture, Protocol, Protocol verification, ()
	Network management	Name management, Path management, Failure/Recovery management, ()
	Computer Network	WAN, LAN, Electronic conference, Electronic bulletin board, Electronic mail, Distributed processing, ()
08 System	Interactive System	System architecture, Methodology, CAE, CAD, CAM, CIM, CAI, Control system, Tutor system, Decision system, Office system, ()
	Online System Control System	Reservation system, Banking system, () Process control, Numerical control, Communication control, Industrial robot, FA, ()
	System Performance	Evaluation technique, Evaluation criteria, Evaluation model, ()
09 Reliability and Security	Reliability Security	Reliability theory, Integrity theory, Reliability evaluation, Trouble Analysis, () Cryptography, Authentication, Key management, Key transfer, Security, ()
10 Application	Applications in Industry	Office, Government, Management, Finance, Information service, Production control, Computer Center management, Education, ()
	Applications in Engineering	Aviation/Space, Mechanical, Civil, Architecture, City/Urban planning, Electrical/Electronic, Instrumentation, Biology, Physics, Chemistry, Nuclear, Transportation/Traffic, Medical/Dentistry, ()
	Applications in Art	Music, Graphic, Industrial design, ()
	Applications in Other Areas	Natural science, (), Social science, (), Cultural science, (), Aid for the handicapped, ()
11 Others		

(II) When appropriate keywords that describe the contents of your paper are not found in the keyword table, write them below.
(1) (4)
(2) (5)
(3)

Table 2: METHODS AND TECHNIQUES

M1 Mathematical and/or theoretical proofs M2 Preparation and execution of programs, or simulation thereof
M3 Implementation of a system, description of experiences M4 Experimentation and measurement
M5 Comparison and analysis of existing systems and posed requirements M6 Others
Specify:

定期刊行物の省略記法

(ISO 4, ISO 833 による)

誌名	省略記法
ACLS Newsletter	<i>ACLS Newsl.</i>
ACM Transactions on Database Systems	<i>ACM Trans. Database Syst.</i>
ACM Transactions on Mathematical Software	<i>ACM Trans. Math. Softw.</i>
ACM Transactions on Programming Languages and Systems	<i>ACM Trans. Prog. Lang. Syst.</i>
Acta Informatica	<i>Acta Inf.</i>
AEDS Journal	<i>AEDS J.</i>
AEDS Monitor	<i>AEDS Monit.</i>
ALGOL Bulletin	<i>ALGOL Bull.</i>
American Journal of Computational Linguistics	<i>Am. J. Comput. Linguist.</i>
American Scientist	<i>Am. Sci.</i>
Annals	<i>Ann.</i>
The Annals of the American Academy of Political and Social Science	<i>Annals AAPSS</i>
Applied Mathematics and Computation	<i>Appl. Math. Comput.</i>
Artificial Intelligence	<i>Artif. Intell.</i>
Association for Literary and Linguistic Computing-Bulletin	<i>Assoc. Lit. Linguist. Comput. Bull.</i>
The Australian Computer Journal	<i>Aust. Comput. J.</i>
Bell System Technical Journal	<i>Bell Syst. Tech. J.</i>
bit	<i>bit</i>
Communications of the ACM	<i>Comm. ACM</i>
Computer	<i>Computer</i>
Computer Aided Design	<i>Comput. Aided Des.</i>
Computer Bulletin	<i>Comput. Bull.</i>
Computer Design	<i>Comput. Des.</i>
Computer Educator	<i>Comput. Educ.</i>
Computer Graphics and Art	<i>Comput. Gr. Art</i>
Computer Vision Graphics and Image Processing	<i>Comput. Gr. Image Process.</i>
Computer Graphics Newsletter	<i>Comput. Gr. Newsl.</i>
Computer Journal	<i>Comput. J.</i>
Computer Languages	<i>Comput. Lang.</i>
Computer Methods in Applied Mechanics and Engineering	<i>Comput. Methods Appl. Mech. Eng.</i>
Computers and Biomedical Research	<i>Comput. Biomed. Res.</i>
Computers & Graphics	<i>Comput. Gr.</i>
Computers and Humanities	<i>Comput. Hum.</i>
Computing	<i>Computing</i>
Computing Newsletter	<i>Comput. Newsl.</i>
Computing Surveys	<i>Comput. Surv.</i>
Datamation	<i>Datamation</i>
Education Technology	<i>Educ. Tech.</i>
Engineering and Instrumentation	<i>Eng. Instrum.</i>
IBM Journal of Research and Development	<i>IBM J. Res. Dev.</i>
IBM Systems Journal	<i>IBM Syst. J.</i>

誌	名	省略記法
IEEE Spectrum		<i>IEEE Spectrum</i>
IEEE Transactions on Computers		<i>IEEE Trans. Comput.</i>
IEEE Transactions on Software Engineering		<i>IEEE Trans. Softw. Eng.</i>
Industrial Engineering		<i>Ind. Eng.</i>
Information and Control		<i>Inf. Control</i>
Information Processing and Management		<i>Inf. Process. Manage.</i>
Information Processing Letters		<i>Inf. Process. Lett.</i>
Information Science		<i>Inf. Sci.</i>
The Information Scientist		<i>The Inf. Sci.</i>
Information Systems		<i>Inf. Syst.</i>
Instrumentation Technology		<i>Instrum. Technol.</i>
International Journal of Bio-Medical Computing		<i>Int. J. Bio-Med. Comput.</i>
International Journal of Computer and Information Sciences		<i>Int. J. Comput. Inf. Sci.</i>
International Journal of Computer Mathematics		<i>Int. J. Comput. Math.</i>
International Journal of General Systems		<i>Int. J. General Syst.</i>
International Journal of Man-Machine Studies		<i>Int. J. Man-Mach. Stud.</i>
Journal of the ACM		<i>J. ACM</i>
Journal of the American Society for Information Sciences		<i>J. Am. Soc. Inf. Sci.</i>
Journal of the American Statistical Association		<i>J. Am. Stat. Assoc.</i>
Journal of Chemical Information & Computer Sciences		<i>J. Chem. Inf. Comput. Sci.</i>
Journal of Clinical Computing		<i>J. Clin. Comput.</i>
Journal of Computational Physics		<i>J. Comput. Phys.</i>
Journal of Computer and System Sciences		<i>J. Comput. Syst. Sci.</i>
Journal of Cybernetics and Information Sciences		<i>J. Cybern. Inf. Sci.</i>
Journal of the Franklin Institute		<i>J. Franklin Inst.</i>
Journal of Symbolic Logic		<i>J. Symbolic Logic</i>
Journal of Systems Management		<i>J. Syst. Manage.</i>
Law and Computer Technology		<i>Law Comput. Technol.</i>
Management Information Systems Quarterly		<i>Manage. Inf. Syst. Q.</i>
Management Science		<i>Manage. Sci.</i>
Mathematical Programming		<i>Math. Program.</i>
Mini-Micro Systems		<i>Mini-Micro Syst.</i>
Nachrichtentechnische Zeitschrift		<i>Nachrichtentech. Z.</i>
Operations Research		<i>Oper. Res.</i>
Pattern Recognition		<i>Pattern Recogn.</i>
Popular Computing		<i>Pop. Comput.</i>
Proceedings of the IEEE		<i>Proc. IEEE</i>
Proceedings of the SID		<i>Proc. SID</i>
Science		<i>Science</i>
Scientific American		<i>Sci. Am.</i>
SIAM Journal on Applied Mathematics		<i>SIAM J. Appl. Math.</i>
SIAM Journal on Computing		<i>SIAM J. Comput.</i>
SIAM Journal on Control		<i>SIAM J. Control</i>
SIAM Journal on Mathematical Analysis		<i>SIAM J. Math. Anal.</i>
SIAM Journal on Numerical Analysis		<i>SIAM J. Num. Anal.</i>
SIAM Review		<i>SIAM Rev.</i>
SID Journal		<i>SID J.</i>
Simulation		<i>Simulation</i>
Software-Practice & Experience		<i>Softw. Pract. Exper.</i>
Soviet Cybernetics Review		<i>Sov. Cybern. Rev.</i>
Theoretical Computer Science		<i>Theor. Comput. Sci.</i>

注) 一般的に会議論文集は次のように略記する. Proc. **th 会議名 開催年 (例) Proc. 8th IJCAI 1990

情報処理学会関連の英文略記

誌名	省略記法
情報処理学会	<i>IPS Japan</i>
(Information Processing Society of Japan)	
学会誌「情報処理」	<i>J. IPS Japan</i>
(Journal of Information Processing Society of Japan)	
論文誌	<i>Trans. IPS Japan</i>
(Transactions of Information Processing Society of Japan)	
欧文誌	<i>J. Inf. Process.</i>
(Journal of Information Processing)	
旧英文誌	略記しない
(Information Processing in Japan)	
全国大会	
(The **th Annual Convention IPS Japan)	
全国大会論文集	<i>Proc. **th Annual Convention IPS Japan</i>
(Proceedings of the **th Annual Convention IPS Japan)	
功績賞	
(IPSJ Contribution Award)	
論文賞	
(IPSJ Best Paper Award)	
研究賞	
(IPSJ SIG Research Award)	
奨励賞	
(IPSJ Convention Award)	
情報処理学会 30 年のあゆみ—活動の軌跡と技術展望	
(IPSJ and Its 30 years—Review of Its Activities and Technical Perspective)	